京城日報 夕刊 十一月十日（土）

英國皇帝御祝電

【ロンドン九日發聯合】イギリス皇帝陛下はわが天皇陛下が十日京都に於て御即位御大禮を擧させたまふに際し八日左の祝電を發せられた

朕は友邦日本の聖上陛下の御代がかぎりなく榮えませむことを祝福するとともに日本國民の陛下に對するいや増す忠誠崇敬の念により、陛下がますます御多幸にわたらせられん事を祈り申すものである。日英兩國民は兩國間の友誼相互的理解、世界の文明及び進歩に對する協力のきづなにより固くくむすばれてゐる

萬歳！萬々歳
即位禮目出度く終らる
何等の瑞祥ぞ―京洛地方淨めの雨もけふは全く霽る

昭和三年十一月十日、允文允武の 天皇陛下にはこの佳辰を以てかねて御親告あらせられたる如く即位の大禮を行はせられたのである。

登極令第十四條には即位の禮及び大嘗祭は附式の定むるところにより之を行ふと規定され、而してこの附式には賢所大前の儀と紫宸殿の儀とが規定されてある。この兩つの御儀が即位禮の二大儀におはし、御大禮の最大眼目たることは申すまでもない。

この尊き兩つの御儀が本日滯りなく終らせられたことは、われ等八千萬赤子の喜び何に譬ふべきことのあらうはずはなく、全國津々浦々に到るまで午後三時を期して聖壽萬歳を高唱し奉つた次第である。

京洛の地方淨めの雨降りつゞき十日の御盛儀如何と氣つかはれたるに、九日午後より天候次第に晴れゆきたるは何等の瑞祥ぞや、まことに天佑のゆたけきに感激せざるを得ない。われ等はこゝにこの御盛儀の御模様を報道するの光榮と悦悦とを感ずるのである。

賢所大前の儀

御殿裝飾 玉座御座舗設

【京都電話】紫宸殿に調合はせて黒木作り、錦瓦葺、五十八坪の御殿を拜す。金銅の金具輝々しくてりはへて黒木の殿舎に狐格子の緋襴あざやかに御簾に九段の階段を設け、その左右には高さ各二十四尺の擬村に八尺余りの四神を鏤び付、一方には柳八寸の白銅鏡および勾玉、管玉、丸玉各三十個を、他方には[illegible]、いづれも五色の帛を垂れ、縁の飾したるばかりにて御代萬歳の色が顯もつて居る。

十日朝まだき

九條祭典長、木多副祭典長は祭典殿の祭器を舗設したてまつると共に御服、御帳、御座代をもあらためたてまつる。内々陣の奥深く仕へたてまつるは大祭典に限る。九條祭典長以下の祭典はたゞ内陣外陣の御飾をつかまつるのみである。内陣の中央に高さ五尺八寸にして三尺四面の御帳を置き奉る。これ玉座にして天の御座と申しはべる玉座の左右に寶劍、神璽を奉安すべき御案を据へ、陛下の玉座の東方に同じく三尺四面の御座を皇后陛下御座として設く。殿内の御舗設終れば、午前六時三十分建禮門、建春門の御とびらが八文字に開かれ、正裝の皇宮警察部長鋭を擬したへおごそかに兩の御門をかたむ

陸續として參入
特に目立つた外國使節
一同朝集所に控ゆ

【京都電話】午前八時頃より今日賢所大前の儀並に紫宸殿の御儀に召されたる光榮あるもの續々自動車をつらねて參内す。際立ちて目に立つのは我が國に二十四ケ國の特派大使および特派使節である。東方の國々天子日の御子の高御座に即かせたまふ今日の盛儀をまのあたり拜するの光榮に醉ひながら、いづれも公式により金光かゞやく服裝の前後を近衛儀仗兵に警護されつゝ紅、紫、白の綬とりどりに、金モールまばゆきばかりの

正裝に

陸續として參入する。次いで東郷大勲位、倉富樞密院議長、奥、井上、上原元帥、各國務大臣、山梨朝鮮總督、山本、高橋若槻各國務大臣前官禮遇、平沼樞密院副議長、宇垣、武藤、井上（幾）鈴木（孝）各陸軍大將、山下、財部、竹下、安保、各海軍大將、各樞密顧問官、德川元田貴衆兩院議長、牧野大審院長、勲一等

旭日桐花大綬章、功一級、公爵、從一位勲一等旭日大綬章[illegible]人同伴、前田法制局長官、[illegible]賞勲局總裁、守衛[illegible]二上樞密院書記官長、仙石宗秩寮總裁、各省政務、事務次官同參與官、[illegible]局長、小杉歩兵第十九旅團長の外特に召された貴衆兩院議員各十名、民間代表者村山、本山、光永、關、木村諸氏以下二十名、及び朝鮮總督[illegible]の外神佛各派總代、朝鮮在住、關東州在住、樺太、南洋群島各在住者總代等

日本晴 十日の京都

【京都電話】御大禮當日も光輝に充ちた今日のよき日は爽やかなる日本晴れに明け放れた、前日降りみ降らずみの空模様も八千萬同胞が祈るばかりなる誠心こめての祈願にいつしか雲は切れ、[illegible]して九日夕刻には燃ゆるが如き[illegible]の兆を見た程こさ、かくて昭和無二の盛儀はいよいよ今日のよき日を以て行はせられたのである

諸員は

丸太町の建禮門、[illegible]御儀に參列を許された諸員は[illegible]門等から[illegible]ずる參入、いづれも金銀の胸章、[illegible]の衣袴、或は銀糸の[illegible]の如き五彩の大綬、金光燦たる大勲章、この中に交る緋黒にして[illegible]み翳の如く見ゆる、[illegible]きらびやかに孔雀の如き女子の盛装、或は古典的の装ひ美はしきことゝ優かなることゝ眼に眼を眩する許り、いづれもソレぞれ式部官の導くまゝに第一、第二朝集所に控へて時の至るを待ち奉る

立纓の御冠
純白の御袍
神々しき御儀服
宜陽殿にて兩陛下御更衣

【京都電話】午前八時卅分頃秩父宮雍仁親王、同妃勢津子兩殿下を初め、高松宮宣仁親王殿下以下各皇族、同妃殿下には紫宸殿に御參入、九時四十五分には聖上皇后兩陛下又殿内に渡御あらせ給ひ。ここにて御服を召し替させ給ふ。この日天皇陛下には侍從奉仕のもとに立纓の御冠を召させ、純白の如き綾綺の御袍に石帶の御飾、御劍の御太刀を佩かせたまへる神々しき[illegible]ながらの御儀にて、御手水の御儀あり、白象牙の御笏を執らせたまふ。皇后陛下には御五衣を召させ、御唐衣、御裳、御長袴と御更衣、御髪はおすべらかしにあげさせられ、女官はうやうやしく御手水、御檜扇を供し奉り、紅紫白五彩七色とりどりの御装ひ神々しく拜せらる、兩陛下御更衣の間に各皇族方、田中内閣總理大臣、一木宮内大臣、牧野内大臣、珍田侍從長、近衛大禮使長官、伊藤式部長官、河井皇后宮大夫、關屋宮内次官、河井侍從次長、式部次長、その他奉仕の女官侍從等すべて服裝を更へて男子は束帶、衣冠、女子は麗しき五衣、唐衣、裳を襲ふ

平安の昔そのまゝ
衛門、威儀物捧持、その他定の席に着く

【京都電話】さる程に午前八時三十分、近衛儀仗兵一ヶ大隊は建禮門、建春門の兩御門をかためて、杉、金子、日野西、菊池、萩尾、[illegible]大禮の大禮使典儀事務官各三名ずつ、衛門外掖に參進して御門の左右

時に十時

[illegible]にきこえ、參列の諸員[illegible]して[illegible]陛下は靜々と玉歩を[illegible]に運ばせ給ふ、伊藤式部長官、一木宮内大臣前行を務め、御劍を、[illegible]侍從御璽を捧持し、珍田侍從長、河井侍從次長、[illegible]侍從武官長、侍從武官等その御後に供奉す。次いで秩父宮、高松宮、久邇宮、東久邇宮、伏見宮、各親王、牧野内大臣、近衛大禮使長官等供奉を[illegible]皇后陛下には長袴の太刀を[illegible]にも出御あらせられ、次いで十時三分皇后陛下を[illegible]女官御裾を捧持し、[illegible]女官長心得、河井皇后宮大夫、[illegible]御後に供し、秩父宮妃、高松宮妃以下各皇族妃[illegible]、關屋宮内次官供奉す。

大前に進ませられ
朗らかに御告文
立纓御冠の御後姿まことに神々しき限りに拜しまつる
賢所大前の儀全く終る

【東京電報】九時二十分大禮使[illegible]の神樂[illegible]

天皇陛下

には御座に[illegible]内陣の床に進ませたまひし[illegible]、侍從は御劍御璽を案上に奉安す、次ぎに皇后陛下も又御座に着御あらせらる。秩父宮、高松宮、朝香[illegible]の許に侍立あらせたまひ、田中内閣總理大臣、一木宮内大臣、牧野内大臣、珍田侍從長、伊藤式部長官、河井皇后宮大夫、[illegible]心得その後ろに侍立、奈良侍從武官長と侍從武官は階下に列を離れて侍す。かくて内陣の奥深く奉仕して居る内掌典白絹を縒りて作れる鈴をひきて神前の御鈴を高らかに鳴らす、

陛下には徐ろに大前に進ませ給ひ御玉串を捧げさせて御拜禮の後、玉座に朗かに御告文を奏させたまひ、天照大神の皇位に即かせたまひたる萬世一系の皇位を告がせられ給ふ。時に午前十時八分、天照の神佑を

[illegible]に入御あらせらる、時に十時三十分。參列諸員一齊に拜禮をなす。[illegible]をはつて神樂歌が嚠喨として起こる中を御神饌を撤し、御扉を閉ぢて けふの大典の一つなる御式典は滯りなくすませたまふたのである。よつて鉦および鼓三ッを鳴つてこれをつげると同時に、參列の諸員[illegible]として退下した、時午前十時四十五分

參列諸員二千
絹ずれの音のみ―かすかにきこゆ

【東京電報】九時二十分各[illegible]の參列諸員は装束美しき大禮服に新に天皇陛下より賜ふ大禮記念章を胸にかざし外國使節今日を晴れとばかりに[illegible]起立してこれを迎へ[illegible]方に進み、[illegible]紫宸殿の方に向つて拜したる後に定位につひたのである。これにて殿上の威儀全くととのつたのである。參列の諸員二千余人の多きにおよぶも、たゞ僅に衣冠束帶の[illegible]絹ずれの音がかすかにさはやけく聞こゆるのみである

繪卷物を

今そのまゝ前列の人は黒袍、後列の人は緋袍同じく[illegible]の冠、[illegible]の新腰しをまとふ。前列の十名は平胡籙を背負ひ、後列は箭胡籙を背負ひて威儀を正した打見れば赤、青、黒の色彩眼もまやにさながら平安朝の昔ありけん[illegible]整然せる如くうるはしくもまた森く拜せらる。諸員滯りなく本位に着くを待ち、午前八時四十分、鉦司鼓司いづれも三度うち鳴らして參列諸員參進の合圖をなす。朝集所に集まりたる文武百官左右の幄舍に參進し北面して著床した

大宮人の 威儀の本位

[illegible]の他につく、[illegible]今日の服裝は常とは異り、まづ縫腋の冠におい[illegible]けを頭にそよがせ、[illegible]色の袍に[illegible]の總帽をまとひ、同じ[illegible]の[illegible]同れも甲、下甲、大口、[illegible]袴の装ひをしてこれに白布の帶をしめ、[illegible]の脛巾をはき、[illegible]をつけたる[illegible]に反りを打たしめて平胡籙を頭高に負ひなし、[illegible]め[illegible]の弓の[illegible]中を袖の袖につゝんださまは、さながら平安朝時代につきたるを今まのあたり見る心地して、優雅とも威武とも[illegible]なき美はしさである。次いで[illegible]安倍の[illegible]は[illegible]色の儀服に[illegible]の本位に着し。同じく大禮使[illegible]左右各六人の[illegible]を率ひて[illegible]使[illegible]左右各二十人いづれも威儀物を捧持す。[illegible]の袋に納めたる太刀八振 泉二、[illegible]島、秋山、下村、平塚 河田、村井、石黒 の人々[illegible]の袍の姿にてこれを捧持す。[illegible] 北村、大朗、富田、西山、村上 岡部、勸修寺、久世 の人々弓八張を赤色の綾錦に納めたり[illegible]を[illegible]として捧持し 松平、小池、細川、杉山、矢島 [illegible]田、清水、[illegible]井 の[illegible]八枚を 加藤、田中、伊東、芝、寺尾 三枝、山山、中山 [illegible]を捧ぐ。[illegible]後に威儀の本位につきたるもの左右各十名、

紫宸殿の儀

莊嚴そのもの
紫宸殿の儀始まる

【京都電報】午前の中に賢所大前の儀を了らせたので、午後一時半より大禮中最も莊嚴なる紫宸殿の儀を行はせたまふ。この御儀は文武百官を集めて即位の事を一般臣民につげさせらるゝ御儀にして、天皇紫宸殿に出御、高御座に昇御、皇后御帳臺に昇御、百官、有司をしてその[illegible]を承け、萬世一系の皇統を即ぎ四海に君臨し給ふことを内外に宣したまふのである。これに[illegible]り、臣民を代表して内閣總理大臣の奏する壽詞および内閣總理大臣の發聲にて臣民萬歳を唱呼するに萬歳を受けさせたまふものである

此の日

早朝紫宸殿は大禮使職員の手により[illegible]られ、南庭の中央に東西二十尺南北十八尺の高御座、その東には御帳臺を設け、御帳臺の前には[illegible]を設けて、金色まばゆき大嘗[illegible]を要り今にも[illegible]を出して金[illegible]の雲代を圖はんとする姿を[illegible]く拜せらる。[illegible]の上の八角には同じ色の小鳳[illegible]を[illegible]。三層の[illegible]なる東西南の三面には赤地[illegible]の七寶[illegible]ある嗣[illegible]の絨をしき、[illegible]は[illegible]の帛をます北[illegible]の下に[illegible]より[illegible]を[illegible]して[illegible]の中央に[illegible]をし[illegible]

た[illegible]子は申すまでもなく[illegible]られて深く[illegible]を垂れ込める御[illegible]は皇后陛下の御座あるところ

高御座

の東五尺をへだてて安置した[illegible]高く掲げられたる『紫宸殿』の額は[illegible]下され、て、日像、中央に五[illegible]を撤き出したる[illegible]さ九十尺、[illegible]五尺余りの[illegible]の[illegible]をかゝげ、その下に[illegible]を垂る。殿上の[illegible]は[illegible]の[illegible]を[illegible]と[illegible]

南庭の[illegible]は南北十五間、東西廿一間、南階の東なる左近の櫻やがて來ん春には[illegible]の心らんまんとして咲き出づべくよく培はれ、西に右近の橘は[illegible]生々として繁れるもと金[illegible]々と實りて今日の盛儀を祝ふげに見ゆ東より順々、日華門、右掖門、長樂門、永明門、左掖門月華門、南庭の三方を繞つて居る。門と門との朱塗白壁の軒廊には、[illegible]ある青白の天蓋[illegible]の前に青簾をかけ、後面には[illegible]の[illegible]をかけ、床は三尺に分ちて後を高くし、[illegible]の由多加縁にて張り詰められ、此處に内外の參列員が居並ぶのである

萬歳旛

がかゝつてゐる南[illegible]尺をさるところ、東西卅尺の距離を距て二旛の旛は赤地の錦[illegible]の地紋、周囲に[illegible]五寸の[illegible]を附し、長さ十八尺[illegible]三尺、上部に五尾の[illegible]、[illegible]、[illegible]をいづれも自[illegible]にて刺し、

その下に大禮使[illegible]紫宸殿下御[illegible]の『萬歳』の二字を金糸にて[illegible]をみるばかりにぬひ取つてある。又左近の櫻の南[illegible]の所より一丈[illegible]に南へ日像[illegible]、頭八咫烏形大錦旛各一旒、青、黄、赤、白、紫の中錦旛五旒同じく青、黄、赤、白、紫の小錦旛各五旒をたつ。右近の橘の南三十尺の所より一丈[illegible]に南へ月像[illegible]、[illegible]大錦旛各一旒、五色の中錦旛、小錦旛各五旒[illegible]旗にたてらるなほ東西共に赤[illegible]に巴の紋を付したる小旛をかけし黒[illegible]の[illegible]各十串を、小錦旛の前にたてた。殿上は金[illegible]すべて[illegible]をしきつめたらん如くである。午後一時廿分といふに建禮門建春門

八文字

に開かれて儀仗の一隊整然として門外に[illegible]。午後一時五十分に承明門、日華門、月華門等に[illegible]の小門、永安門、長樂門、左掖門、右掖門は一齊に開かる。各國特派使節を初めとし文武高官、有爵者、[illegible]、各夫人等は何れも賢所大前の儀により一旦退下して第二朝集所に[illegible]を[illegible]再び以前の服裝にて威儀を正して[illegible]門の外に列立し終るや、

神々しく

[illegible]報らせ、天[illegible]の[illegible]に[illegible]ひ[illegible]の[illegible]を[illegible]して[illegible]國家の[illegible]を[illegible]にせむことを[illegible]せたまひ、内[illegible]典[illegible]に御鈴の[illegible]神前の御鈴を鳴らし奉る立纓御冠の御後姿のいかに[illegible]おはすことよ。たゞ[illegible]くおはすと拜するより外に申上げ奉る言葉もない。つぎに皇后陛下には御[illegible]せたまひ、御玉串を捧げさせて御拜禮の御事あり。[illegible]次に御拜禮あり、[illegible]天皇皇后陛下には徐ろに玉歩をかへさせ

皇太后陛下
萬歳御三唱

【東京電報】皇太后陛下には御即位大禮の佳辰に當たる今十日には常にも增して御早く御起床遊ばされ、御潔齋の上午前九時半頃御神殿の御扉の時[illegible]に御日拜の間に入らせられ、大宮皇太后宮太夫以下各女官側近の者と共に御遙拜遊ばされ、かしこくも午後三時には御[illegible]の中に立御あらせられて京都の方を遙に拜ませられつゝ萬歳を御三唱[illegible]御側近奉仕者もこれに和し奉り聖上御即位を御祝遊ばされた

大禮記事 裏面につゞく

大禮記事裏面につゞく

美しき

紫宸殿上の御舗設とその[illegible]の如く南門の本位に[illegible]く服裝[illegible]賢所大前の儀に等しく

承明門
浮田、荒井、大島[illegible]、伏原、[illegible]尾の各典儀官

日華門
[illegible]井野、吉田（[illegible]）中島の各典儀官

月華門
加藤（正）坪上、木村、岩手、[illegible]須賀、森の各典儀官

長樂門
[illegible]、高田、清水（[illegible]）乙葉の各典儀官

永安門
[illegible]、西村、原[illegible]の各典儀官

左掖門
金澤、相藤各典儀官

右掖門
[illegible]、山田各典儀官

なほ大禮使高等官にして樂人なる安倍、芝の兩典儀官は鉦鼓六名を率ひて參入し司鉦司鼓の本位に着き

次に同大禮使高等官、池田、山田、[illegible]、[illegible]山、中村、宮崎、成瀬、黒崎の八氏は太刀を、木戸、久保田、松本、富田、西山、冷泉、池小路、伊達の八氏は弓を、淺田、[illegible]松、三島、[illegible]、津田、九條、柳澤、井口の七氏は胡籙を、[illegible]田、[illegible]井、川越、[illegible]田、田口、澤田、[illegible]、伊東、池田の八氏は鉾を、田中（[illegible]）大原、村上、土屋、工藤、吉住、佐々木、唐澤、の八氏は夫々楯を恭しく捧持して中[illegible]前面の本位に着き、次に阿部[illegible]宮内次官、[illegible]の各省次官及び樺山[illegible]内務次官、大[illegible]東京都府知事吉田外務次官、前田法制局長の十名[illegible]金森、森岡、大橋、[illegible]井（[illegible]）長谷川長島、加賀[illegible]村瀬、関根の典儀事務官十氏後は列につひた。

その服裝[illegible]ね賢所大前の儀に奉仕せるものに等しく絢爛を極めたものであつた

即位禮當日
皇靈殿神殿に奉告の儀

【京都電報】即位大禮御祭行あらせらる當日十一月十日には宮中賢所殿で午前六時より御殿の御装飾をなし濁水谷[illegible]で典[illegible]衣束帶又は布衣單に て掌典[illegible]補[illegible]皇靈殿神殿の大禮使[illegible]は正裝にて午前九時半までに參進、樂人の神樂[illegible]中に參典、皇靈殿、神殿の御扉を開き、神饌幣物を供し、[illegible]谷[illegible]樂[illegible]長うやうやしく祝詞を奏し、おはつて勅使[illegible]侍從は東[illegible]にて拜禮、御祭文を讀み、御玉串を奉りて拜禮を終らせられ、

いて皇后陛下御代拜吉見女官同じく御拜禮をなし、つゞいて參列者の大禮使高等官一同一齊に拜禮、次いで樂人の御神樂中に神饌幣物を撤し御扉を閉ぢ、再び[illegible]進下御を終りその御祭文を京都にある一木宮相を經て電送した

朝鮮神宮で
十四日夜かゞり火祭

朝鮮神宮に於ては十四日夜大嘗[illegible]に[illegible]神宮において天照大神に神饌を捧げられ長時にわたり御祭典が行はせられるので、この夜御大典[illegible]を[illegible]朝鮮神宮門[illegible]て奉祝かゞり火祭を行ふ事となつた、この時刻は十四日夜七時から十一時まで朝鮮神宮に參拜の人々は朝一本づゝを持參してかゞり火を焚き、[illegible]陛下の御[illegible]を遙に拜す事となつてある

田中首相一木宮相
陞授爵の恩命あらん

【京都電報】御大典終了後田中首相に對しては陞爵、一木宮相に對しては授爵の御沙汰ある模様である

紫宸殿の御儀つゞき

兩陛下出御

高御座と御帳臺に着かせ給ふ御盛儀

とても筆紙に盡されぬ莊嚴

【京城電話】程なく午後二時五分鉦鼓三下の合圖は司鉦司鼓の者によりて打たれた。參列の諸員一齊に起立して大禮使諸官の前導のもとに門内に入り一部は殿上の參役にと東西兩階へ他は總て南廊へこれに續いて伊藤式部長官、西園寺式部次長は殿上の南廂へ參進し

東帯帯劒 の各式部官これにしたがつた。次いで近衞大禮使長官、儀仗官、細山田大使次官は南榮に、伊藤式部長官の上班につき、田中内閣總理大臣、一木宮内大臣は南榮の近衞大禮使長官の上班につき、次いで閑院大禮使總裁宮、秩父宮、高松宮殿下をはじめ奉り伏見、賀陽、久邇、朝香、竹田、梨本、朝香、東久邇の各皇族の殿下に續きたまひ、皇后陛下の御出御あるべき御帳臺には秩父宮妃殿下を殿右翼に、東伏見宮大妃、閑院宮妃、伏見宮妃、賀陽宮妃、久邇宮妃、同若宮妃、梨本宮妃、朝香宮妃、竹田大妃、北白川宮大妃、李王妃方子女王各殿下御五衣御唐衣、御裳、御長袴、の御姿貴紅、紫、白、五彩、七色とりどりの御衣の美々しく御髪はおんすべらかしにあげさせられ、御手には雲にやさしき檜扇をとられて二時四十分までに總て御參進を終る。拜し奉るだに

竹の園生 の御麗りに襲ります御姿を拜えて、芽出度しとも芽出度き限りに拜した。これより先天皇、皇后兩陛下には宜陽殿の御儀より一旦宜陽殿へ御退下御裳を召させたまひて御帳もなく瑞官の醜く宣擢了へた午後二時半黒田侍從捧持の御衣服に召し替られた。これこそ山科いと高き殿高御衣装束とて御歴代天皇が御即位に召されたる黄櫨の袍、風を明治大帝が改めさせて御制定されたもの、即ち黄櫨染の袍で、紋は高き御衣紋には桐竹鳳凰麒麟の紋が、やがて御手水渡々しく御用ひあらせられ、二時四十一分伊藤式部長官、一木宮内大臣の御前行にて後侍從の捧ぐる御劍璽の御物をとて牧野内大臣以下供奉の諸員をしたがへさせ清涼殿より出御、軒廊の

高御座に 北階より升御遊ばされた。土屋侍從は御劍を南江田侍從は御璽を捧持してこゝまで供奉し、御帳中の案上に御劍璽を安んじ奉れば諸員敬禮として頭をあぐるものもなく、高き呼吸をなすものすらなし。この時牧野内大臣は南階を御帳外の東北隅に候す、珍田侍從長以下各侍從、奈良侍從武官長以下各侍從武官は高御座段乃の擬下に侍立す。かくて全く高御座壇上の玉座定まるや御五衣、唐衣、御裳の髄たげき御十二單の御姿の皇后陛下これに續かせ給ひ、御帳臺北階より靜々と升御あらせ、御帳女官つゝしみて捧園を與し奉つた。秩父宮妃、閑院宮妃以下各皇族妃殿下はいづれも御帳臺前面の擬下に御參進あらせて本位につかせ、河井皇后宮大夫、竹屋女官長以下女官御帳臺の後の擬下に侍立し奉る。

兩陛下が 高御座あらせたまふを待ち、黒田侍從と野口侍從はしづかに高御座の東西兩階より壇上に進み、黒田侍從は東階より野口侍從は西階より靜々と御帳ばりをかゝげたてまつり、又山崎高田小路兩女官は御帳臺の東階西階より同樣御帳をかゝげたてまつた。この時天皇陛下にはかしこくも御劍を端させて立御あらせ、次ぎに皇后陛下には御檜扇を執りて立御あらせたまふ。嗚呼神代ながらの御束帶に黄櫨染の御袍を召させ象笏をとらせたまひし龍姿の儀然としてさながらに神を仰ぐが如く拜せられ、日輪燦爛の光輝をまのあたり拜する如く、更に御五衣、御唐衣、御裳、御長袴の皇后陛下の玉姿の神々しく拜されたことよ。燦たり、煌たり、使節群臣百官國民の各代表均しく霊威に打たれ、たゞ感激するのみであつた。

鉦の一聲

南庭に響けば

諸員一齊に最敬禮

その一刹那二時四十七分といふに鉦一點南庭にとうとうとして響きわたれば、諸員一齊につゝしみかしこみて

最敬禮を なす。その瞬間の光景は神殿の如く、壯美の極であつて、到底筆舌を以て形容しうべきでない。日本帝國としての神聖と威厳、日本帝國民としての最大幸福、今まさに最高潮に達し眼には拜し難いが神靈の加護ぞ天佑の豊けさに、あきらけく照るものがある心地して、滿座の群臣皆涯の民を代表するやから、感激と忠誠の念に白熱した。」

天皇陛下畏くも

勅語を下し給ふ

田中首相壽詞を捧讀し

萬歳を奉唱す

【京城電話】二時四十七分、各國使節始め各大臣等と共に殿上高御座の左方所定の位置に列立してゐた田中内閣總理大臣は、西階を降りして跪ける金鵄策々としてゆたけき右近の橘の前を通過し南庭に出で北面して、陛下に立てば、再び起る鉦一打の合圖に、諸員恭しく最敬禮を奉る。時しもあれ二時四十九分 **天皇陛下には、牧野内大臣の捧ぐる勅語を群臣百僚に下し給ふ。萬籟寂として聲を呑み、森閑さながら太古の面影に似たる紫宸殿に玉音朗々として御庭の隅々にまで透徹したまふを拜した。** 畏くも御殿の御簾高き玉階の朗々たる、參列の諸員はたゞ神ながらにおはす 天皇陛下を拜し得て

情極まり て感激の涙の如くあふれ出づるを禁じ得なかつたのであつた。午後二時五十三分勅語の降下訖るや、田中内閣總理大臣は靜かに南階を升り奉り束は黒袍束帶にそりを打つた劔を佩す。劔は御前三郎國宗の名刀を仕込みたるものであるかくて二時五十四分 **田中内閣總理大臣は殿上南廂南榮の下に起ち、謹み畏みて壽詞を捧讀し奉る、** 壽詞は田中内閣總理大臣が國民を代表して天皇の御即位を壽ぎ祝ひ奉るものである。田中内閣總理大臣の壽詞讀み上げ朗々として誠忠の至誠火の如きものを披瀝す、國民至誠の至情にして朗朗如たり。讀み終りしく嘸を乗れて田中内閣總理大臣の捧讀終上するところと思を悉うして具申 陛下の御代の萬歳を壽ぎし奉る。二時五十九分右稍階を了るや田中内閣總理大臣は南階を靜々と後退りしつゝ降り、南へ歩むこと十八歩、高さ三十九尺の大萬歳旛、錦の幟き旗をくゞらます如き國威張旗の中央前面に挺進、緊張に當るこゝに **天皇陛下の龍姿を仰ぎ拜しつ、直立不動の姿勢をもつて咽も張り裂けよと計り『天皇陛下萬歳』と聲高く稱へ奉つたのである。** 諸員すべて『萬歳』と唱和す、更に田中内閣總理大臣は『萬歳』と唱へ奉る、諸員再び『萬歳』と唱和す、次いで田中總理大臣三度『萬歳』を唱へ奉る、諸員三度『萬歳』を唱和す、時正に

午後三時 この三度する萬歳の奉唱、唱和の際こそ建禮門外に設置してあるマイクロフォンによつて烏丸七條のスタヂオから全國七ケ所の放送局に中繼され全國津々浦々まで寸刻をあかず傳はり、紫宸殿前の御盛儀の感激の御次第は今眼のあたり拜する如く國民に感激する事が出來たのである。なほ紫宸殿の前庭にては諸國各司百官一齊にこれに唱和すれば、衣冠帶ゆれて衣ずれのさはやかなる響ざつと起こり、紅綠櫛に相參差し **滿庭感激にどよめきにどよめき亘りて澎湃たる聲のつなみは軒廊の御壁も爲めに張り裂くるばかりてあつた。** 折しも紫宸殿の簾翻くとまれる金鳥、白鵰も又萬歳く簾翻を聞ひてこれに和し、高御座上の金鳳も羽ばたき顫く、頸をのばして高らく叫んでこれに

唱和した かの如く拜されたのである。まことに萬歳を三唱し奉つた田中内閣總理大臣は一世一代の光榮をになつたのであるが、これを唱和した群臣百僚は今まで感激してゐた忠誠を奮ひたてまつるの赤心と皇室の上に天佑神助の加護彌々ゆたかならんことを祈り奉るの誠意とを披瀝せしめて臣のあらん限り萬歳―萬歳―萬歳と申し上げ奉つたのであり、この萬歳と同時に日本帝國の領土といふ領土は朝鮮、世界至るところ、いやしくも帝國臣民の一人にても住めるところは、總て東の方に向つて同じ時刻、同じく萬歳を三唱して同じ心にて帝の前途と皇室の御多幸におはさんことを祈願し奉つたのである。

御儀全く終る

目出度き極み

かくて昭和をはれば、田中内閣總理大臣は西階を引つて座に復し、次ぎに黒田、野口兩侍從、入江高御座の

東西兩階 より壇上に升り御帳を垂れ訖つて座に復す、次に女官二人御帳臺の東西兩階より壇上に昇り御帳を垂れ訖つて座に復す、かくてこの御大禮儀は凡ての御次第を訖らせたまひ、兩陛下には御氣色いよいよ麗はしく諸員の最敬禮裡に入御あらせられ、次いで再び鉦鼓三下の起りて各員退下こゝに盛儀の大禮儀は同三時二十五分御滯りなく全く終らせられたのである げに芽出度き極みである」

朝鮮神宮前の奉祝祭

神宮前庭に

萬歳のどよめき

京城府民の遙拜式

喜びの人波が小石のすきもない程に境内を埋めた、喜びの日の喜びの光景である。秋陽さんさん、晴れ紅綠の幟旗が林立して續く、人々の歡喜が續く、神宮社頭に國旗の金玉が輝く、溢れる喜びのさまである、人の爲である、喜びの波である。

午後二時半 各中等女學校生徒、青年團員、消防組、在郷軍人團、小學、普通學校生徒、各官衙職員、各銀行會社職員、府内公職者、在城官民有力者が所定の位置に整列した。空高く、秋陽燦として正に御大典日和である。ラッパが君ケ代を吹奏した。場を埋めた萬余の人々が崇嚴なる一瞬に立つた、總ての人々が人の血をめぐる、高松宮司の祝詞が終るや、國歌たる樂の音は國歌を奏し、少年團員は大國旗を靜々と揭揚し、京城府廳に向いて日章旗はひるがえる、正三時、遙に京都御所紫宸殿前田中首相の萬歳三唱の時である

天皇陛下萬歳 次いで萬歳の讃唱、萬歳の聲が喜びの聲となつて感激の涙をこめて唱和される。舊宮が、梵鐘が、フランス教會の鐘が一齊に吹鳴して居る。全國民の待ちあぐんだ日のこの時刻、午後三時の一瞬に全國民が立つたその瞬間の神祕なる喜びの時よ、心よ、樂隊の伴奏で御大典奉祝歌がうたわれる、神宮を一齊に

拜禮するや 府民遙拜式は式の終了をつげて平山宮司が奉げ、一同最敬禮をなし、順次退散した

京城府尹 京城府尹は府民を代表し宮内大臣宛謹みて御即位を賀し奉る旨の執奏方及び皇后大夫並に皇太后大夫宛同樣言上方を乞うた

大嘗祭當日の神宮

十四日大嘗祭當日は朝鮮神宮でも午前十時から奉祝の大祭典が勅使參向の上執行される。勅使は朝鮮矢島地方課長、丸山屬の二人を從へ、前日より勅使殿に參籠、午前九時三十分までには一般參列員參集、玉串奉奠の各團體代表は社務所に參集し、王族、公族の御代理も到着の後、祭典をはじめられる

この日神前には昌德宮李堈公家の鏡餅の奉納があり、總督、總監、軍司令官等よりも夫々鏡餅が奉獻される、また全鮮各郡から石二斗の濁酒及び清酒の奉納があり、夜は七時半から天晴會と京城少年團との合同で神殿の廣場に篝火が焚かれるはずである

慶賀執奏

池上政務總監は十日の即位禮に際し東京都宮内官内大臣宛左の如き電報を發した

謹ミテ即位禮ヲ賀シ奉ル
右執奏ヲ乞フ

管理權要求は支那側の宣傳

【上海九日發】上海總領事館は日本が山東鐵道の管理權を要求したとの王正廷氏の談話を否認しこれは支那側が我締結を有利に展開せしめんがための宣傳であると發表する處があつた

元山組合銀行成績

元山組合銀行十月下半期成績は預金合計四百卅九萬一千五百七十八圓貸出總計五百萬五百八十七圓にして前月末に比し預金五萬八千八百八十二圓貸出十四萬五百九十五圓を何れも減少してる內譯左の通り單位圓（元山）

▲預金 定期預金一、八二〇、四二三當座預金八二一、九九七特別當座八四三、八二三諸預金八〇五、三三六合計四、二九一、五七八

▲貸出金 貸付金二、六二六、七四八當座貸越二八六、〇九〇割引手形一、〇五九、九一九爲替手形二六五、二四〇合計四、二三七、九九、公共團體貸付七六二、五九〇總計五、〇〇〇、五八七

國際運輸の由來

國際運輸の起源は大正十二年六月日本運送會社が滿洲における事業運送と合併し國際運送株式會社を設立し引續き山口運輸、長春運輸國際運輸、ハルビン倉庫、北滿倉庫を買收と共に明治運送の業務をも支配して大連にその本社を置き東洋第一の運送會社として飛躍したが大正十五年八月內地運送業者の合同から國際運送および明治運送の兩社はその支社營業即ち滿洲支那、朝鮮、臺灣、沿海州における業務を切離してこれに參加する事となつたのでその切り離した部分の業務を繼承して生まれたのが卽ち現在の國際運輸株式會社である。內地の運送會社の合同はその後昭和三年三月完成して國際通運株式會社と名のる事となり國際運輸の母體たる國際運送も他の諸會社と共に消滅したがこれ等諸會社の名稱が類似して居たので世人は今なほ國際運輸を國際運送と呼んだり國際通運を國際運輸と同一視して間違ひを起す事がしばしばあるが國際運輸は大連に本社を置き滿洲を營業地域として居るから內地を本據とし營業地域とする國際通運とは全然別個の會社である國際運輸は資本金一千萬圓（全額拂込）で營業科目は海陸運送取扱及び倉庫業、一、倉庫業、代辨および保證、一、勞力請負、一、直接間接に運送に關係する資金の供給等である現在の役員は社長一氏を專務とし平田常務は專務を補佐し吉村取締役は營業方面を剛崎取締役は哈市に駐在し同地を中心とする地域の營業を擔任して居る（大連）

運命の寵兒フーヴアー（2）

一介の勞働者

から築き上げた信用

勞働者として立つ 猛太郎を出たフーヴアー氏は鑛山技師として立つ決心をしたが當時の米國鑛山業界では鑛山技師が屢に毛嫌ひされてゐて、フーヴアー青年を容れる余地がなかつた。彼はこゝに敢然決心して一介の鑛山勞働者となり、一日二弗五十仙の賃金を貰つて金鑛山の採掘でも、トロの手押しでも何でもやるとの血の出る樣な苦行を經驗した。これが後年における鑛山技師としての歐の動かす可らざる確固たる地を作つてくれたのである。」

鑛山技師として大成す フーヴアー氏は間もなく樂間に出て當時西部の鑛山技師として聲をなしてゐたルイス・ジャニン氏の下に働く事になり、各國の鑛山に派遣した幾何もなくその才能を認められて二十四歲の時シャニン氏の推薦によつて西濠洲に新に發見された鑛山に主任技師として赴任し一躍年俸七千五百ドルを支給されたしかも一年の後には同鑛の一割五千ドルとなつてゐたのである一八九九年には一まづカリフォルニアに歸り、ヘンリー嬢と結婚して共に支那の開發事業に赴任した。一九〇〇年の義和團の亂に際して天津の外國租界に籠城し、大いに救急事業のために奔走した。後或は鑛山會社の組合員となり、或は獨立に鑛山業を營み、又は各地の鑛山會社の顧問技師となつて、歐洲にシベリアに濠洲に又はビルマに、メキシコに、アラスカに、關するに世界至る所の鑛山業に關係して斯業界に其名を認められた

世界に認めらる

しかしながらフーヴアー氏が眞に歐米の人物となつたのは歐洲大戰の勃發に際つておこつた各國の事業に非凡の手腕を發揮してからであつた。歐洲の天地が慘憺たる戰雲に蔽はれ盡くすや無慮二十萬に達する在歐の米國旅行者、或は居住者は金融梗塞の混亂に伴つて莫大な信用狀を所有するも一文の金も引出せない破目に陷つた。米貨の大暴落はこの苦惱を二倍にし三倍にした。フーヴアー氏は駐英米國大使故ペイヂ氏の依囑に應じて米人救濟委員長となり、サヴオイ、ホテルの事務所に陣取つて、手際よく米人旅行者に金を融通した。氏は一米國銀行に保證を與へ旅行者の呈示するあらゆる信用狀、小切手又は旅行手形の類に對して片つぱしから平價の爲替相場を以つて英國貨幣を供給した。この太つ腹なやり方の爲に當時フーヴアー氏を煩はした人々は痛く氏に敬服を感じ、約百五十萬ドルの融通に對して、フーヴアー氏が實際上の損失を引受けた額は僅々四百ドルに過ぎなかつたといふ（寫眞はフーヴアー氏（左）とエヂソン氏（右）

即位大禮奉祝のため

本日朝刊休刊

夕刊は締切りを延ばし別に號外を發行しました

懐中要藥 セイシンタン 清心丹 主成分 殺菌劑 健胃劑 固腸劑 興奮劑 清涼劑 効能本位 酒食乘物人込等の不快胸惡嘔吐下痢時候アタリ等の際含嚼用すれば口中清凉氣分爽快 暑熱や寒氣アタリ惡疫等に對する抵抗力を強大ならしむ 本舖 東京日本橋 高木與兵衛

出た旬刊 養鷄活書 中央家禽タイムス 堂々たる內容P發鷄家好指針一月十錢一年一圓見本進呈支局募集 名古屋市中區上六（振替名古屋一六八九八番）中央家禽タイムス社

京城府壽町三十三番地（京劇筋向） 碇屋旅館 長電話本局二四四五番（自動車乘入自由） 御親切叮嚀と大勉強を以て御客樣方の御便宜相計り申候

京釜線大田 產科婦人科 沖津病院 院長 醫學博士 沖津亘（電話四九番）

年數御相談 恩給金融 誠實第一貫 親切第一 府川仁 九拾町宮 森田耕

英習字 無代進呈 新聞名記入御申込次第 英習字熱達法（無代進呈） 大日本英習字研究會 東京目白高田町三六〇〇

發明品販賣店募集 一般家庭必需品 惡品い販賣方法と說明書 名古屋市中區 四時ほど賣れる季節品 要傳町二ノ十九 丸八商會 月收百圓以上 努力次第儲かる

鑛泉應用ノ銘菓 御土産 御見舞 ニモ

朝鮮名產 ミヤマユキ 深山の雪 蜂蜜松の花入 各地菓子食料品店ニテ御求メ下サイ

頭痛にノーシン

京日案內 一行一圓二十五字詰五行一圓 京城府 京城日報社

糖尿（アラビヤタキスー） 京城府黄金町四ノ四六 電本二一二〇番 川津商會

乳母 健康大達腕の乳 母を世話下さる御方に謝禮致します 知らせて下さいまし 東一ノ四佐藤

金融 京城府 他便なる方法にて月收の人に融通 御商品擔保共 電本二三六〇九 西垣商店

乳母 生後三ケ月の幼兒に毎日朝夕二回授乳してもらひたし至急大學病院東一ノ四號室死電話又は來院願ひたし 佐藤

讓店 有田製藥ドラッグ及設備共格安至急讓渡す御希望の方は京城鍾路三丁目九十一有田製藥ドラッグの方え御來談を乞ふ

進呈 平素の御愛顧に酬ゆる爲め十一日より十七日まで手札以上御寫眞の方に金文字入美麗なる記念寫眞ブックを進呈します 本町一渡邊寫眞館

賣地 永登浦驛の至近五千坪を本人同地引揚の爲め格安に御希望の方は至急 永登浦田旅館内 三井

恩給 京城府錦町大和町三五（電本六九一番）江州屋本店 資金融通御利用の方は是非一度御來店へ

黑燒 京城太平通一ノ二五八（振替京城七一八） 小松商會 類は動植物類 各種まむし蛇類一切

恩給 京城竹添町一ノ八 大門東入る西門小路 光化門前 電話一六八四三番 長岡商會

恩給 年金扶助料長期即時立替並に受給者へ有利なる方法を紹介す 京城府黄金町三丁目 長谷川町 電話本局一〇九七番 武田商會

ほね つぎ もみ 一切治療御依頼に應ず 明治町交番より入る 武術館 柔術道場

古本 京城本町二丁目 電本二一九五番 御一報次第參上可仕 永井書店

特別案內

乳母 三十歲以下衛後六ケ月以內の方 入浴不問至急電話又は來談あり 大學病院內東五ノ三 堀內

瑞祥の紫雲たちこめて 大典を壽ぐ半島の民草

陽光くまなきこの佳き日 府民が懸命な奉祝の營み

稜威に寶ませ給ふ我等の上御一人が即位の大典を取り行はせらるべきけふ十日、平安の古都の盛儀もさることながら、昌盛くまなき我半島にも瑞祥の紫雲たちこめて畏き聖代を壽ぎまつる二千萬同胞の至誠はまことに感激そのものであつた、この日本府の賀、總督の遙拜に和する萬歲奉唱、外國使臣の祝賀等取行はるべき京城にありては、京城神祠が快哨を報じた後は黎明の秋風もさはやかに天氣晴朗。喜びの陽光下に全府民が營む奉祝の營みはさながらの繪卷の如く繰ひろげられて行つた

戸毎の日の丸にも あふるゝ至誠

黎明を破る三味線や囃に 切られた奉祝の幕

十日の黎明には早くも三味、囃、太鼓の響き。それにワツトどよめく群衆のわめきがつゞいて大京城の奉祝行事は早くも市民の歡聲に切つて落された。風は冷たいが人は多い。家といふ家には國旗が翩々として秋風になびき。紅白の幔入の奉祝幕は軒をつらねて續々。絢爛な飾、典雅な意匠に感嘆の聲はいふにおよばず。われら市民のシンボルの奉祝塔は澄み渡つた秋空に百二十尺の光塔をきらつかせて燦然。城壁に三角形の大日章旗が々と秋風に屹立してゐる。

下目黑町の辻には純白のテント張く紅白の奉祝幕に圍まれて聖上萬歲を壽ぐ飾の燈籠、同町の有志百余名は純白の冠着く町をねれば雲の如く集まつた中には、天照大神の生誕が臨場されて、神輿は今にも一瞬く如く八百萬神には神使の赤々と燃えて手力男命は正に岩戸を開かんとす、しばし歩をとゞめる群衆にワツト歡聲が起げてあり流して行く

祭裝人の波、波、波、

町を洗つて踊りを流して行く。

本社を訪問

十日午後二時半までに左の諸團體では本社を訪れて萬歲を唱和した▲京城音樂聯盟▲本券番▲京城帽子商組合▲黃州北一、二丁目▲丸石商會

萬歲を三唱しそれより各

火の流れとなつて大京城の町々を洗ふ。と見る間に町々の薄闇につゝいて紅燈が浮き上つて來る。府內各中等學校以上の男學生一萬名に達する奉祝提灯行列は午後六時半各學校毎に隊伍をととのへ第一隊は鐘路通りより第二隊は黃金町交叉點へ第三隊は朝鮮銀行前へ第四隊は南大門前に集合して各四列縱隊になつて第一隊より順次行進し府廳玄關前を通り太平通り光化門通りを經て本府正門前にいたり一解散地に行進する燈籠行列、花バスは市中をめぐり大京城の巷をまいた樣な闇はかくて喜びの灯と化し一萬人の提灯の波は燈籠、火龍の列を作つて地にわたりかくして大京城の夜は一大不夜城となる

音樂聯盟の奏樂

京城音樂聯盟ではメムバー約四十名出動し十日午前九時から奉祝の爲め府廳前奏樂および本社前廣場において雅々代のオーケストラを行つた

鬼ケ島征伐や 鶴龜の行列

思ひ〳〵の趣向に 街は擧げて人の波

新町、本町兩券番の四百人からなる藝妓連を先頭に屋臺もの三十七臺、新町の鶴龜、粉裝、京城ホテルの前、桃太郎鬼ケ島退治、明治町の鯛、成果、帽子組合の國旗行列、文武百官行列や小門の

四百人の假裝行列、朝鮮一流どころの假裝行列や町の大藝妓、漢山通り等四區の子供さん達の旗奏の行列等千百に余る屋臺、山車、花車が一齊に八以上にのぼる祭人にまもられかつがれて町を練りあるく大京城十日の奉祝は人波にひねもすどよめき醉いては浮き浮いてはどよめくその歡聲、熱鬧はいよ〳〵はじまつた。見よ。町を洗ひ、踊りを流す藝妓の波、祭人の熱狂に交つて響くは國小門町から一齊となつて現れた支那祭囃入の

壯大な

銅鑼の響き高らかに擧げての練りた支那人の家には寶大日旗が高い。明治町二

大京城を洗ふ 燈火の行進

府內の各團體が 提灯行列を行ふ

午後六時を期して大京城は火の町と化し一大不夜城を現出する。秋の夕空高く百二十尺の奉祝塔は

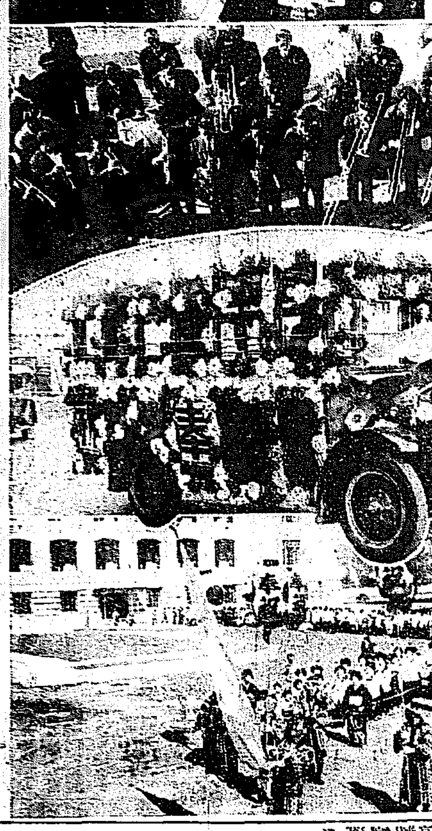
二千有余の提灯を燈籠として輝かせば南山麓朝鮮神宮よりは

美麗なるサーチライトが

釜山の遙拜式

奉祝氣分漲る

【釜山特電】釜山における御大典奉祝の第一日に當たる十日は西北の風おさまらず溫度は近來にない低下を示して例年より七日早く初氷を見た程であるが曉より空晴れ



奉祝畫報（上より）御下賜品傳達式（府廳にて）京城音樂團の演奏（本社前）花バス本券の大行列（本社前）

畏き御沙汰に 感激の翁媼

けふ京城府廳で 御下賜品傳達式

御大典に際し特旨に依り全國の八十歲以上の高齡者に御下賜品があつたが、京城における御下賜品の

傳達式

は十日午前十時、京城府廳會議室で行はれた、この日、光榮の翁は付添ひの者に手をひかれ、或は杖をたよりに府廳に集まり、中には內地人の最高老である鍾路通り三丁目四十九番地居村すが（九七）は切髮に、紋服つきに身を正して、介添に手をひかれ、又、議州通り二丁目一五二番地吳氏（九七）は長い杖をつき傍に手をひかれながら、老の眼にも感激の涙をうかべてゐる。集まる光榮の老の人は八百十五名。子に手をひかれくるのは

老の人

實に多い。宛然さすがの合い儀式であつた

および酒肴料を賜し午前十一時閉式した。この日本府活動寫眞班はこの光景を撮影した

文簡公に 祭祀料

馬野府尹から傳達

御即位御大禮に當たり天皇陛下には特に文簡公李滉の儒者たる成渾氏文簡公に對し夙に世道文教に貢獻した高い氏の功を頒揚された祭祀料を御下賜相成つたので馬野京城府尹は十日その宗孫たる府內昌成洞五八成興祐氏宅を訪ひ謹みて傳達を賜遂申上げた

入院患者に お菓子

城大附屬病院で

京城帝國大學附屬病院ではこの聖代のめでたき御大典を奉祝して同院入院患者一同にもれなく紅白菓子を一箱づゝくばつて患者と共に奉祝を頒賜し、看護婦には紅白

小學兒童の 旗行列

新義州の奉祝

【新義州特電】今日十一月十日佳き日の新義州は朝來快晴、げに御聖代の御佳日を祝福されたる市內の各種の裝飾はうるはしく朝日にも輝いて全町は奉祝氣分漲つたこの御小安神社は參拜者を以て賑ひ十時からは府廳樓上で府民が奉祝の祝賀式あり、各團體は各々午後二時からそれ〴〵奉祝式を行ひ官民合同の奉祝式は二時半から公會堂の廣場で行ふ。午後は盛んなる

陸戰隊の正 式參拜

【仁川電話】仁川碇泊中の佐世保鎭守府第十驅逐艦隊は十日午前八時滿艦飾を施し、午前九時大坂少佐指揮の下に百三十名の陸戰隊が軍艦旗を翳いて上陸し驛頭にたる陸戰隊はラツパを先頭に港町を一直線に仁川神社に行進した。これより先第一驅逐艦には府社の八個の警察署長以下の各町長ら集まり府の大日章旗をかざし陸戰隊の正式參拜を了した。陸戰隊は更に花町、外里、內里、中町を經て、仁川神社へ戰式後仁川の參拜をし午前十一時、府廳前を經て第一驅逐艦に引揚げた。この間本府活動寫眞班は陸戰隊の行動をもれなくフイルムに收めた

遂つて一滴の雨もなく天氣晴朗である。この日正午の如く午前中は公會堂に二百七名の高齡者に天盃下賜及酒肴料の授與式あり、午後は龍山公會堂にて府民一般の遙拜式と參拜をこめた萬歲奉唱あり各中等學校いづれも拜賀式を擧げた市中はかくて隈なく紅白の裝飾さまざ〳〵に美しくメートル幔幕等で飾られた花電車の運轉などあつて盛裝した府民の往來多く市內に奉祝の氣分漲る

ターサイレンをもつて萬歲奉唱の合圖とし二萬府民一齊に萬歲を唱へ遙拜式を奉行。無事畏くも奉つた。那須の夢の沙汰なく小學校普通學校兒童は二時から旗行列をした

天主教會の 大典奉祝

十四日天壽 無窮を祈る

フランス教會で呼ばれる明治町の天主公教會では御大典奉祝のため十日は午前十時ボーヨー師によりてミサ聖祭をなし全信者參列したが

先帝御幼時の 御玩具も陳列

あすから三越に コドモ生活展開催

先に新しい試みとして全鮮社會には常に、次ぎの時代をつくる兒童の福祉、進の爲に努力しつゝあるが、さきには御大典記念にコドモ博覽會を開催し、又第一回乳幼兒審査會を開催して多大の好果を收めた、今回は更にこの慶古の御大典を記念すべく、兒童愛護の一大提唱をなさんとして

好果

今回は京城三越本店玩具部を主催として十一日より十三日まで三日間の展覽會を開催する事になつた。これは古く百數十年前の京城三越本店の玩具部主任をしてゐる武田信一氏が、多年兒童の福祉増進の爲に種々研究努力の結果された古代兒童の玩具、繪本をはじめ兒童の愛育上必要なる諸種の參考研究品、統計圖表を陳列して世の識者に子を持つ人達の參考に供しやうとする

試み

である。元來兒童の發育には誰しもが心を碎く所であるが其の經驗の方法に於いて不備な點があるため各の困難を伴ふ場合が往々にしてあるのであるから

秋田の八幡の犬、羽子板、水戸人形、熊本の木葉猿、

北海道の木彫熊、兒童の生活に關するものを陳列し比べるものとして日本玩具が展示され、本邦最古の玩具、並に鼻の繪本の

運命大鑑定

日限 自七日至十六日

場所 南大門上 笑福旅館內

天地眼師の

印度哲學に於ける世界的の靈と高名を博す

店頭裝飾競技會

褒賞授與式

國民政府獻品

【上海九日發聯合】國民政府は日本公使に御大典祝品として見事な銀製花瓶一對を献上することとなつた

再組閣

佛國後繼內閣

ポアンカレー氏

【パリー九日發聯合】フランス後繼內閣組織に關しては前首相ポアンカレー氏が再びその任にあたるべく奔走中であつたが、ポアンカレー氏は九日新內閣組織の使命を承諾した

偽刑事現はる

中興旅館に三人組

九日午後十一時頃京城府北部洞中興旅館に刑事と稱する男現れ、投宿中の京畿道仁川府竹里...

御大典記念奉仕として十一月十日より十二日まで撮影の御方に一千冊入りのアルバムを進呈致します（手札版以上一組毎に）

京城本町一丁目

ワタナベ寫眞館

人

◎明石順三氏（殖銀理事）十一日朝退城

あすの天氣（十一日）

高氣壓は支那中部から東西に延びて朝鮮及び本邦方面は氣壓が低い全鮮一般天氣が回復し氣溫は昨朝より五度內外下つた明日は天氣が良い

豫報	氣	溫
晴一時曇	十日正午	最高九、低日

會

十一日午前十時から朝鮮ホテルにて表彰式を行つた。

來青閣

十一日 午後七時から
國際聯盟講演會
入場無料

十二日 午後七時から
石井漠氏講演
石井漠舞踊講演會
附井本舞踊實演
券は御申受く

ぜんそく
喘息研究 第五號出來
治療通信社

御大典記念 コドモ生活展覽會
十一日ヨリ十三日マデ
於三階
後援 京城日報社
兒童の福祉増進を圖るべく斯界の權威者が苦心蒐集せる玩具、繪本並に、兒童生活擁護に關する參考研究品等陳列
京城 三越

どうして……頭痛には……ノーシン

新澤庵漬の豫約募集
毎年非常な御好評を頂いておりますが弊店特製の新澤庵漬左記特價にて本年も御注文に應じますから賣切れぬ中にお早く御申込を御願ひ申上げます
一、特價
特製品（一等品練馬大根）大一樽 金七圓五拾錢
一等品（宮重大根）金六圓五拾錢
二等品 金五圓五拾錢
一樽正味拾六貫詰樽附値段
一、申込期限 十一月二十日まで
一、受渡期限 十二月一日より
京城府北米倉町
嶋屋市內販賣所
電話本局九〇三番・二三三〇番

寒さ來る！ 燃料の御用意は試みに
會寧炭を
是非一度御求め下さい
朝鮮炭中の最優良炭として定評ある會寧炭は火力強く火持ちよく燃燒後木炭代用ともなり特に煤煙なき爲め室內の清潔と煙突掃除のいらぬ事は家庭燃料として皆樣の御滿足を得る最大條件を具備してゐる次第です
炭坑 鳳城炭礦株式會社會寧礦業所
一手販賣 京城府林町一九〇番地
朝鮮炭業株式會社
電話 光化門九一二番 貯炭場 本局三四〇五番

一生安心なる 求職募集

一尺一錢 ナフトル友仙
小山德三商店

臨時休業
來る十二日御大典に就き謹而休業仕候也
京城水產株式會社
同魚仲買組合

御大典記念大賣出し
御大禮ヲ奉祝シ本日ヨリ右ノ値段ニテ當分ノ內御用命ニ應ジマス電話本局一〇四二番ヲ御利用下サイ迅速ニ配達申上マス
明治町二丁目（電本一〇四二）
石田精肉店

奉祝御大禮

全州郡參禮驛前 廣濟醫院 李漢用

全州郡參禮面 參禮醫院 李寛鎬

裡里尋常高等小學校 職員一同

湖南線裡里 貸□業 在間甚太郎

全北黄登 桐原彦吉

湖南線裡里 日用雜貨 荒物 井上豊三郎 電話五十番

益沃水利組合 職員一同

湖南線裡里 貸□業 兒玉吉太郎

湖南線裡里 今井精米所 電話二七番

湖南線黄登 全北畜産株式會社 電話一一番

裡里旅館組合

裡里公立高等女學校 職員一同

裡里料理屋組合

湖南線裡里 窪田好助 電話一四〇番

全州郡參禮面 伊藤農場

參禮昭和會

全北黄登 青木長藏 電話四番

全北黄登 片桐和三 電話六番

光州面長 倉品益太郎

光州學校組合管理者 松田德次郎

光州無盡株式會社

清州面長 立野新五郎

清州驛前 朝鮮自動車運輸株式會社 服部自動車部 電話二一番

光州東門通 ダリヤ食堂

北一樓 電話三五番

忠北無盡株式會社 電話一六二番 代理店 忠州、槐山、永同、沃川

南北綿花株式會社 清州支店

清州道立醫院 職員一同

木浦公立高等女學校 職員一同

木浦大和町 ミツワヤ洗布所

木浦榮町通り 森の家

御料理 木浦驛前 平和館 電話長七五七番

木浦穀物商組合

木浦金融組合 職員一同

鎮南浦府尹 池田魁

鎮南浦龍井町八番地 西崎鶴太郎

朝鮮鎮南浦 富田儀作

鎮南浦府 新井新藏

鎮南浦 朝鮮商工株式會社

鎮南浦公立學校 職員一同

鎮南浦府 土曜會

南川警察署 署長 谷村杢次郎

黄海道南川 道評議員 申元熙

瑞興郵便所 所長 岡崎貫一

新幕郵便所 所長 下川喜三郎

新幕公立普通學校 校長 指愼三

京義線新幕(電話三六番) 金物商 火藥 丹生利

金川警察署 署長 渡邊元衛

金川公立普通學校 職員一同

金川公立尋常高等小學校 校長 小松三彌

黄海道金川 野村紀一

黄海道金川郡 郡守 洪河奎 外職員一同

黄海道瑞興邑 朝鮮興業株式會社 酒井正三

平州刑務所瑞興支所 支所長 松井石太郎 外職員一同

黄海道瑞興郡 郡守 梁元鈦 外職員一同

汗浦公立普通學校 校長 小林正喜

汗浦驛長 佐久間松治郎

京義線南川驛前 織居自動車支部 電話二一番

黄海道平山郡 郡守 劉瀗燮 外職員一同

鎮南浦 專賣局出張所 職員一同

鎮南浦警察署長 冲德五郎

鎮南浦遞友會

瀨ヶ沼白陽

平安南道立平壤慈惠醫院 鎮南浦分院

鎮南浦稅關支署 職員一同

鎮南浦 柳原醸造所 藤本醸造所

運送業・倉庫業・肥料・雜穀

清州驛前 朝鮮運輸倉庫株式會社 (電話一一九番)

出張所 京城蓬萊町 電本一〇九三番 / 中南鳥致院驛前 電話一三番 / 忠北清安驛前 / 忠北忠州 電話四七番

忠北土木建築組合

木浦公立尋常高等小學校 職員一同

木浦府廳 職員一同

木浦 山野瀧三

木浦商業會議所 職員一同

木浦 南北棉業株式會社

木浦米油組合

木浦無盡株式會社

木浦信託株式會社

木浦電燈株式會社

木浦ホテル 電話三一七番

虎屋旅館 電話二五七番

淺見旅館 電話七五九番

三吉野旅館 電話一二三番

柴田旅館 電話七二二番

木浦金曜會

木浦穀物輸出商組合

木浦農談會

馬山府上南洞九六 馬山繰綿工場 馬山繰綿工場製綿部

代表銘酒 大正櫻

於各品評會最高優等賞受領

醸造元 馬山 合資會社 清水醸造場 電話一七〇番

鳥致院驛前 守永材木店

鳥致院砂防事務所 職員一同

鳥致院 古市廣之助

鳥致院 朝鮮物産株式會社

京城日報鳥致院支局長 中井龜太郎 電話一〇八番

鳥致院 白井製絲工場 電話一四番

鳥致院 朝永土地株式會社 電話一五番

鳥致院 御料理 菊の家 電話一八番

鳥致院旅館組合 明治旅館 重松旅館 丸屋旅館

鳥致院 益田材木店 電話一〇〇番

朝鮮自動車株式會社 鳥致院營業所 電話二二番

鳥致院 承認運送店組合

鳥致院 御料理 席 北一樓 電話一〇一番

鳥致院吉野町 中井醬油合資會社 電話一〇八番

大田電氣株式會社 鳥致院支店 電話四八番

南北棉業株式會社 鳥致院繰綿工場 電話一一九番

鳥致院 松函石油組合員 岡清太郎 中井留四郎 辻川喜助

鳥致院穀物協會

鳥致院 三中井呉服店 電話一二〇番

全羅南道光州 金曜會

鳥致院面協議員 學校組合議員 一同

全羅南道廳 食堂員

清酒菊の光醸造元 日本ゼネラルモータース株式會社 自動車販賣特約店 光州酒造株式會社

鳥致院水曜會

全北益山郡大場村 今村一次郎

裡里醫師會

裡里木曜會

裡里東拓支店 支配人 佐々木久松

裡里五月會

益山面協議會員一同 裡里學校組合議員一同

テント 夜具 其他一式 入 宮崎式ペーチカ販賣所 旭テント商行 京城太平通り停留所横 電話本局二八八九番

全羅南道 光州郡廳

全羅南道立光州醫院 職員一同

京城府本町二丁目一八 黒川精肉店 電話本局九六四番

京城府本町二丁目 石川物產商會 電本一八八四番

京城府明治町一丁目 佐藤鮮芳堂

京城府明治町二丁目 野口紙店 電話本局一五八七番

京城府永樂町二丁目 大正生命保險會社 京城支部 電話本局九三三番

新日本火災海上保險株式會社 京城支部 京城府永樂町二丁目 電話本局九六三番

京城府南大門通二丁目 株式會社大倉洋紙店 京城出張所 電話本局四九〇番

帝國製麻會社 京城出張所 京城府永樂町二ノ五二 電話本局一八三〇番

京城煉瓦共同販賣所 京城府黄金町二丁目

京城本町二丁目 カフエー白蝶 電話本局三六三五番

朝鮮總督府中央試驗所 京城高等工業學校 京城工業學校 食堂員一同

京城料理屋組合

電燈、電話工事請負 電氣材料販賣 越田電氣商會 京城本町一丁目 電本一四三〇番

京城府漢江通十三 染料顔料商 福壽洋行 電話龍山六四六番 九六六番

彌生遊廓組合

京城鐘路一ノ一九 角田洋服店 電話光化門九五五 一三三〇番

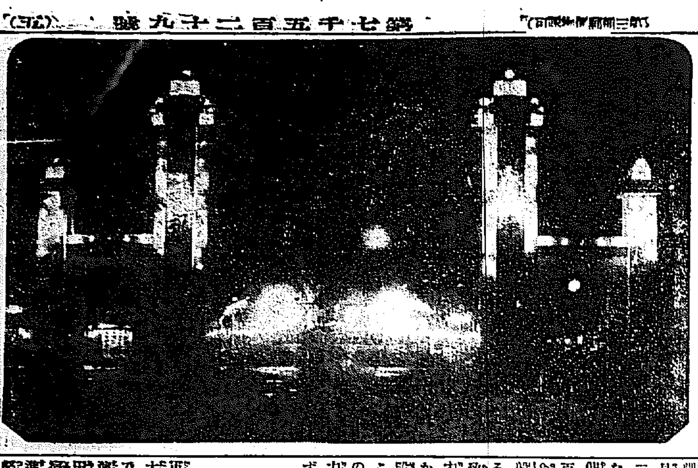
南滿洲電氣株式會社

けふの佳き日 萬歳の聲に滿つ

盛大な各地の奉祝

釜山 釜山における御即位紀念日の拜賀式は道廳では午後二時から會議室にて御眞影拜賀式を擧げ、[illegible]府内關係[illegible]集合して内務部長の發聲にて萬歲を奉唱、[illegible]、府廳、郵便局、地方法院等その他の各官衙にても同じく拜賀式を擧行し、それ一般の拜賀は[illegible]された市民一般の拜賀は[illegible]、午後二時から[illegible]に集合し[illegible]にて午後二時から[illegible]鐘を合圖に萬歲を奉唱[illegible]

大邱 御即位紀念日の大邱府では府尹以下府民一同[illegible]に參集し午後二時二十分から[illegible]



◇…大邱の奉祝電飾

恩命 枯骨に及ぶ 祭粢料を賜ふ四氏

御大典に際し畏き邊りから朝鮮の[illegible]

> 關係[illegible]祭粢料下賜されるものは
> 達城郡玄風面池洞里 宗孫金致永
> 全羅道(朝鮮文敬公)[illegible]
> 慶尚北道[illegible]宗孫李大源
> 李彦迪(文元公)
> 安東郡陶山面土溪里
> 李滉(文純公)李忠鎬
> [illegible]
> 右拜受代表者慶州面[illegible]代表者
> [illegible]の四氏で十日各郡守から[illegible]を以て御沙汰の傳達式を行ふ事になつてゐる

清州 御大典の奉祝施行順序は左の通り
▲十日 清州神社祭典午前九時奉祝式午後三時萬歲奉唱
▲十一日 餘興の諸行事正午より午後四時まで道廳前に於て
▲十四日 清州神社大祭祭午前十一時
▲十六日、十七日 […] 午後一時より一日より十七日まで各町内の展覧會出し物その他の催物組合の屋臺[illegible]、生花會、菊花會[illegible]

味噌をつけた 清州電氣甦る

發電所の増設も完了して 一日から規定の電力供給

清州[illegible]電力不足のため永らく市民怨嗟の的となつた清州電燈も漸く[illegible]

成興 御大典を迎へ成興では十日午後三時半より遙拜式擧行[illegible]萬歲を奉唱した[illegible]

▲成興では十日十二日は花咲町通りに[illegible]

沙里院 十日午前十時から[illegible]

紅白八ッ橋

成興高女から獻上

成興高女生徒が御紀念[illegible]

メートル展

九日から釜山で開催

釜山府主催のメートル展覽會は[illegible]

保證金詐欺

[illegible]

兵隊さん大もて

[illegible]

沙里院の大降雪

三時間に渉つて降る

沙里院地方では八日午後から氣温がいちじるしく低下し九日正午頃から約三時間にわたり大降雪ありて一面に銀世界をなしたこれ本年の初雪である(沙里院)

南川署共濟會成立

南川警察署では今回相互扶助の目的で共濟會を組織し一日から施行することになつた規約は十二條より成り會長[illegible]

(イ)會員にして病氣に因り休暇執勤六十日以上に渉りたる時は金貳拾圓
(ロ)會員在職五年未滿にて死亡したる時は金四十圓
(ハ)會員在職五年以上にして死亡したる時は金五十圓

(ニ)會員と同居する家族の死亡[illegible]
(ホ)會員五年未滿にして退職[illegible]
(ヘ)會員五年以上にして退職[illegible]

面事務所引越し

[illegible]

沙里院から

◇興論や大勢には一向[illegible]

◇又自分たちが[illegible]

◇我が一般國民の考へでは現在の[illegible]

◇最早今日となつては[illegible]

地方集會

◇仙波少將一行歡迎宴[illegible]
◇常盤醫長午餐會[illegible]
◇山淺氏[illegible]

地方人事

▲伊達圓南[illegible]
▲山根太吉氏[illegible]
▲水野錢氏[illegible]
▲花籠熊次郎氏[illegible]
▲油谷保三氏[illegible]
▲村本賢一氏[illegible]
▲木下元一郎氏[illegible]
▲仁與氏[illegible]
▲杉村匡[illegible]

奉祝御大禮

仁川 渡邊秀雄

仁川新町 仁川石油組合 電話七一五番

京城府明治町二丁目 島田誠昌堂 電話本局二〇八番

龍山醫師組合

クームヒン株式會社

仁川本町 藤木商店
仁川宮町 小紫商店
仁川神社 磯野勝見
仁川本町 太田與吉

仁川 內海淑郎

仁川宮町二丁目 鈴木硝子店
仁川本町 宮本貞吉
仁川仲町 三木園 電話七二六番
仁川新町 野田紙商店

京城府明治町 東京 大阪 美粧倶樂部 田中なを 電話本局三七二七番

京城府黄金町二丁目 明治生命保險會社

京城府黄金町三丁目 綠屋旅館 電話本局二七四八番

仁川濱町 クケヤ鐵工所
仁川新町 佐藤醫院

仁川山手町 吉田秀次郎
平壤 江戸屋號 長尾[illegible]吉
平壤府 高瀬合名會社支店 電話一〇二番
平壤府大和町 江口支店
平壤 林長太郎
平壤 仲村報國園
平壤 カワハシ樂浪堂
平壤神社 松尾正枝
平壤府 中本商店
平壤府本町 長富一之祐
平壤府 石田屋洋服店
平壤府大和町 脇阪文鮮堂
平壤府大和町 盛昌洋行
平壤府大和町 桑田信助商店
平壤府大和町 島本彌作商店

大連 田中喜介
大連 福昌華工株式會社
加藤眞利
津田元吉
大仲齋之助
大連取引所長 山崎平吉
富次素平
岡常次郎
長谷部正平
大連火災保險株式會社 取締役會長 村井啓次郎
滿洲ドック株式會社 和田敬三
大連市 油脂工業株式會社 野木和一郎
大連市 榊谷組
大連市 進和商會

仁川 ベンネット商會 電話二〇一番 同七四二番
京城 ベンネット商會支店 電話本五一三番

仁川宮町 京城電氣株式會社 仁川支店

仁川 敷島貸座敷業組合

仁川鮮航會

仁川本町四丁目 河野竹之助本店 電話二二八番

仁川 八木定

仁川 吉岡久

仁川穀物協會

仁川金谷里 朝鮮燐寸株式會社 電話一五一番

仁川 寺島利久

仁川松坂町 愛敬社石鹼工場 電話四五八番

仁川米豆取引所 荒井初太郎

仁川米豆取引所 電話 一一四番 八三番 七五四番

口中胃腸內殺菌劑 カオール

の常用をおすゝめ致します。

秋＝は例年病菌漫延の季節であります。

健康なる皆様が病菌に侵されぬ様に

外出の時・飲食の後。

等には必ず本劑の二三粒を口中に含み常に潑剌たる元氣を有し決して病氣に罹らぬ様御注意を願ひます!!

懸賞當籤發表

懸賞籤がカオール愛用者殺到さして去る七月一日より九月卅日迄の期間に於て募集致しました擬貨鑑別の正解は本劑の能書へカオールを供給した方が正解者であります 應募總數拾四萬參千貳百七拾參枚の內無効答案貳萬六千貳百五拾枚を差引き正解答案拾壹萬七千貳拾參枚を規定に依り去る十月十八日係官新聞記者及殷賑代理店諸氏立會の上嚴正公平に抽籤した左の方々が當籤と決定致しました

◎壹等　金側腕卷時計壹個宛　貳拾名

東京市麴町區[illegible]研究所前
東京市深川區石島町二二一
東京府下大島町八ノ三四五
大阪市東區內平野町一ノ一七
京都市下京區西九條橋町二六
京都市東九條大石橋高瀨川
京都市上京區出町西詰
京都市姉小路通り大宮西入
橫濱市中區野毛町二ノ四二
橫濱市伊勢佐木町二ノ二一
橫濱市中區中村町一
名古屋市中區御器所河田二三
長岡市荒屋敷町
島根縣八東郡講武村大字名分
德島縣阿波郡八幡町大野島
朝鮮全南康津邑內
朝鮮慶北安東郡豊南面河回里
朝鮮京城府外阿峴北里四
北海道虻田郡弁邊村字下山梨
奈良縣南高等商業學校內

國分茂樹殿　齋藤龜太郎殿　日下館殿　小林繁太郎殿　石塚政春殿　潟淵小都子殿　水野恒次郎殿　籔田竹二郎殿　手塚靖雄殿　青野靜殿　茨田乙次郎殿　村上イサノ殿　加藤政利殿　井上盛一殿　賀仁幸夫殿　久保重吉殿　柳時滿殿　金子宏殿　鈴木喜久治殿　小川袈裟次殿

◎貳等　銀側腕中時計壹個宛　貳拾名

東京市深川區扇橋町一ノ一六
東京府下巣鴨町宮下一八三二
京都市上京區御前通丸田町上ル東入
京都府與謝郡宮津町郵便局
橫須賀市中里町三三五
神奈川縣[illegible]町七六二
靜岡縣小笠郡橫地村奈良野
愛知縣東春日井郡坂下村大字[illegible]
神戶市兵庫今出在家町三ノ四一
奈良市十輪院畑町一
和歌山縣新宮町[illegible]
山口縣長府町惣社町
埼玉縣入間郡松井村
宮城縣登米郡佐沼町[illegible]
盛岡市本町三九
朝鮮全南光州北門通四〇八
朝鮮釜山府水晶町
朝鮮黃海道松禾郡石灘里
北海道根室國標津港
北海道紋別郡山部村山部市街地

廣瀨房二殿　[illegible]

◎參等　プラトン萬年筆壹本宛　壹百名
（以下敬稱省略）

[illegible]

◎四等　口中香料オリヂナル香水壹個宛　五百名

[illegible]

◎五等賞品　口中胃腸內殺菌劑　カオール卄錠何壹個宛　壹萬五千名（氏名省略）

賞品發送は拾一月一日より拾一月十日迄に全部發送濟みになる豫定であります

一、當籤か否かの御問合せに對しては乍遺憾應じ兼ねます

口中胃腸內殺菌劑　カオール本舗　安藤井筒堂藥品部懸賞係

カオールの配劑と其効用

製劑顧問　ドクトル　松尾　道

一、口中及胃腸內殺菌劑
空氣又は飲食物と共に口腔より侵入し來る黴菌、即ちチブス、コレラ、流感、結核菌等その他の病菌病毒を口中並に胃腸內に於て完全に殺菌しこれ等傳染病を豫防す

二、健胃整腸劑
胃を健全にし、且その消化力を亢進し、食慾を增進せしめ、下痢、腸カタル等に整腸劑は殺菌劑と相協力し是れを治療す

三、强壯及興奮劑
身體を强壯ならしめ、特に心身の疲勞沈衰したる時には各機能を興奮せしめ、氣力を回復旺盛ならしむ

四、淸涼及美音劑
その特有の芳香により口中の惡臭、惡熱を除き祛痰劑は咽喉の乾燥を潤し、音聲を美化し、從つて精神を爽快ならしむ

定價
袋入 [illegible]
携帶用 [illegible]
瓶入 [illegible]
容器付 勾玉形・鞘形 各五十錢
ポケツト容器 丁字形容器 各三十錢

緋扉　御大典に因んで（松本幽雅軒内きよ子）

結婚の月十一月

正式禮裝の心得

結婚、招待、訪問等　晝と夜とで異る

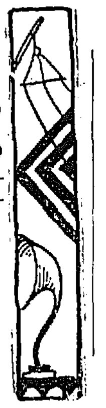
一年のうちで最も結婚の好期とされてゐる十一月特に今年は畏き邊りの御大典も行はれる事でもあり、下萬民の心としても一生の中最も榮えある喜びをこの月に得やうといふ向きも多いとの噂であります。その結婚の方式も最も西洋風がとりいれられて洋裝のそれが大分流行となつてをりますが、こゝに男子の正式禮裝の心得をしるしませう。それは夜間、晝間と服裝が違ひます即ち次ぎの通り

正式夜間禮裝（午後六時後）

オヴアコート……夜會用黒色インヴアネス、又はチエスターフイールド
上衣……黒色燕尾服（絹衿、折返し襟手）又は深暗背色の生地のもの
チヨツキ……シングル又はダブルブレストにて地は白の浮織
ズボン……上衣と共生地で外部に黒側章附
ワイシヤツ…白リンネル胸の堅きもの生地は平地又は白浮織
カラー……白の前折
ネクタイ……ボータイ
手袋……白色
帽子……シルクハツト、
靴……禮服用靴又は夜會靴
靴下……黒の絹製、無地又は共糸の縫ひあるもの
ステツキ……黒色
（以上招待、晩餐會、舞踏會及び劇場用にも應用）

正式晝間禮裝（后六時前）

オヴアコート……チエスターフイールド、又は黒の外套
上衣……フロックコート又はモーニング、色は黒、緣取り又は緣無し
チヨツキ……白又は上衣に釣合ふ生地、型はシングルブレスト
ズボン……縞物
ワイシヤツ……白色で胸は堅いものか又は襞を取つたもの
カラ……前折
ネクタイ……アスコツト又はボータイ
手袋……白色
帽……シルクハツト
靴……パテント・レザー
靴下……黒色、絹くは綿糸物
ステツキ……黒味勝ちのもの
（以上招待敬賀及訪問用にも應用）
なほ御大典の場合には晝間でも共チヨツキは黒になつてをります。禮裝には又略式がありますが、こゝには正式のみに止めます

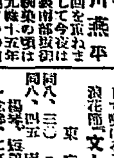


JODK（京城放送局）

十一月十一日（日曜日）

午後〇、三〇　氣象概況　各地天氣概況
同〇、四五　國際講演「最近の平和運動」　京城帝國大學教授法學博士　泉哲
今日は平和克復記念日である、歐洲大戰亂を閉ぢて年久しく四海平和の瑞光に浴く輝いてゐる國際聯盟の使命もこゝに存じ遠くもこゝに生れる、平和恊力の基礎の確立を願ふや切なるものがある、此の平和記念日に際し國際法の權威城大法文學部教授泉哲氏に煩し揭題講演の放送は意義深い試だ
同一、三〇　御慶事並唄　數　李玉花
同六、〇〇　ニユース
同六、〇〇　童話「天宥の灑」　方小波
同六、三〇　西洋雅樂　2萬歲五里外　一百八打令　申海中月　裵甕月
同七、〇〇　ニユース
同七、〇〇　邦樂合奏八三部合調　上田芳琬作曲　本曲「大禮樂」
一部　金殿仙玉　飛枝仙樂
二部　五穀豐城　藤本仙翠
三部　澤口榮仙　石川仙翁
風雅會の澤口さんと金盛さん外四名は今回宗家上田芳琬の新作になる祭祝の大禮樂を三部にして放送される事、上田流の吹き手揃ひ、定めし聞きばえがあらう
同七、二五（中繼放送）寶生流謠曲　宗教　寶生　重英

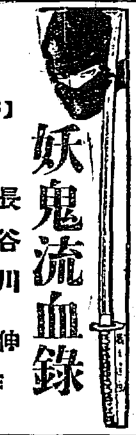
御大典記念講演「大嘗祭」　朝鮮神宮宮司　高松四郎
高松宮司の講話放送によつて大嘗祭の御次第から今夕の大嘗祭を詳細に解る、祭に就いても大嘗祭前勅使發遣の儀、鎭魂の儀、賢所神殿供進の儀、大嘗祭當日の儀等の御儀を知る事が出來る、切に謹聽あり十四日に都にて行はせられる、いとも嚴かなる御儀の御模樣を知る事が出來る
同八、四〇（中繼放送）大阪中繼より
中村雁次郎一座
内地中繼放送のために聘まれてゐる昨今々夕は成駒屋一座を聞く事が出來る、いつもの枠を脫ぎ棄てゝ、シルクハットに燕尾服といふ變つた姿で雁治郎初め老優連が珍趣向を出す由だが之は見るに出なき氣して才藤も若返つてゐるか何うか聽きもの



浪花節　裏南部坂　東京　早川燕平
回を重ねまして今夜は裏南部坂、觀衆の頃は元祿十五年極月中の四日、南部坂なる淺野の後室瑤泉院に對面すれども嗣者の入込みを知つて討入の實を語らず不忠の臣の冒を浴びて去る、明くれば十五日出し本懷を遂げて

十一月十二日（月曜日）

午前一〇、〇〇　氣象概況　各地天氣概況
同一一、〇〇　料理獻立　日用品値段
午〇、三〇　家庭講座「子供と玩具に就て」　兒童研究家　武田
東西古今の玩具に對する通話、埃及、ギリシヤ、支那、ロシヤ等より日本玩具の消長に關して一般世間が玩具に對してより以上深刻な注意を寄せられたい
同一、四五　ニユース
同六、〇〇　初歩英語講座　鈴木保太郎
同六、三〇　お話「御大禮と海軍の儀禮」（ラツパ吹奏）
總督府御用掛海軍中佐　作間　珊雄
仁川港碇泊　艦　乘組信號兵數名
御即位の大禮は國家最高の盛儀で國を舉げて歡喜泰賀の至誠を表してゐる事は申すまでもないが、その海軍の儀禮は頗る壯觀なものであるが、多く海上で行はれるので比較的皆さんの耳目に觸れない憾がある、今回の御大禮に對する海軍としての儀禮即ち觀艦式及近畿行幸啓の奉迎の沿道各港の鎭守府に於ても儀禮艦の配置や儀仗隊差遣其他御大禮觀艦式の全てに就てお話したいと考へております、尙軍艦に於ける儀禮の狀況は號笛（パイプ）號管（ラッパ）等を實地演奏してお耳に入る積りであるから皆さん殊に子供方や學生諸君に聽取を希望致します
同七、〇〇　御大典記念講演「御大禮後儀及餘論」　朝鮮神宮々司　高松四郎
御大典に關する諸儀につきましては極めて簡單ではありますが申上げた次第です、終りに當りましてこの曠古の御盛儀を我々民草に誠心こめて御祝ひ奉るのであります、朝鮮に居ります我々はこの喜びが内地人のみの專有でなく、鮮人の方々も共に御祝ひ奉らねばならぬと云ふことを神代時代からの日鮮の關係より述べて明かにしたと存じます
同七、三〇　長唄「常盤庭」
唄　陽堂榮乃司
同　金干まさ子
三絃　杵屋佐多枝
同　杵屋佐代枝
同　花茂登彌千代
小鼓　久民中久作
同　久民中興太郎
大鼓　一の家一若
安藝の嚴島明神の緣起から江戸の芝浦から品川の海を眺め景色を敍したものであるが、放送は御聖染の杵屋佐多枝一派によつて放送さるるので御祝ひの氣分を充分發揮して頂けるそうであります
同八、三〇　ニユース
同八、四五　浪花節「文七元結」　東京　早川燕平
同八、〇〇　南道短歌　數種　短歌獨奏と合奏　一念晩、二打令、三雌歌　河弄珠　金相淳　趙東奕
同九、四五　時報、氣象概況、翌日プログラム發表



妖鬼流血錄【72】

長谷川伸作　木村哲二　伊藤幾久造畫

盜人の戀情（四）

「ちやア死ぬのを思ひ止まつておくんなせえますね」篠野が取り落した短刀を眺めながら、松吉嬉しさうにいふ。
「何の御縁か存じませぬが、あなた樣の御親切身に染みて嬉しう存じます、あなた樣のお力であの二品を取り戻してさへいたゞけますれば、好んで死に はい たしませぬ……」
「ようがすとも、きつと盜み出してあげますよ……」
松吉こゝまでは身體中を流れる俠血にあほられて、好い氣もちにいつてしまつたが、さてそれについて聞きたい交換條件を付け足していつて置きたい誘惑を、流石にそいつはいひかねた。
「それでは、何時取り戻していたゞけませう……」

「なンの雜作にございやせん。二三日うちに隙を見て盜み出します他人樣のお品でさへ易々と入り込む私ですもの、自分の家のやうにしてゐる兵衛さんの家ン中にある代物を盜み出すぐらゐ、朝飯前の仕事でさア……」
「ありがたう存じまする……」して、二三日過ぎましたら、どこへいたゞきに參りましたらよろしうございませう」
「なアに、取りにおいでなさらなくつても、しやるにやアおよびません。おところを伺つて置きせえすりやすお宅まで屆けて差上げますよ。ことによると、どなたも氣のつかねえうちに屆いてゐるかもしれませんよ」
その松吉の冒險の意味が篠野には判らず、不思議さうに首を傾ける。
「私のやうな稼業の者は、晝間は晝間、夜間うかうか出掛けて上げたりして、御手に這入にくどくどと忘れでもいはれて、そいつを人にでも聞かれたらそれこそ大騷動、畫新聞配達が白河夜船でぐつすりと寢込んでゐるなさる時分に、そつと枕もとへ置いて來て上げますよ……」

と云つて松吉、與しい篠野の瞳を想像して、胸をときつかせるのだ。
土地の百姓らしい爺さんが鍬を片手にのそのそと來たのをきつかけに篠野も松吉も立ち上がつた。
「ちやア、まア二三日お待ちなすつてお與ンなせえ……」
松吉、篠野の住居を詳しく訊くと『ではご免ンなせえ』とたつた一言、云ひ捨てるなり隼の天邪り、忽ちのうちに姿は見えなくなつてしまふ。
懷劍を帶の間へ、確りについた落葉を拂つた篠野、改めてわれに返つたやうに、ほツとして吐息をついた。
總しが夢のやうにしか、篠野には思はれなかつた。
腕と腕との爭ひで、立派に取り返すことの出來ない夫庄左衛門がつくづく申譯なく思はれて來た。
「何故死んでしまはなかつたのだらう……」
篠野は自分を叱りつけるやうにつぶやいた。夫が腕と腕との爭闘で取り戻すことが、自分が恥を忍んで失敗し、盜人の力を借りて取り戻さうとは……何といふ卑怯、淪しとたりとも、武士の妻である身の爲すべからざる行爲ではないか……。篠野の眼には新たな淚が光つた。
松吉は暫く、腕組をしてもう志津摩の邸宅に戻つてゐた。
「あの女は何者だ……」と源八郎が云つた。
「あれが本田庄右衛門の妻ちゃ」
志津摩吐き出すやうに答へる。
「美しい女たなう……」
源八郎が云つても、志津摩答へもしない。
彼の腦裡の松吉、胆の中で源八郎の冒險に挑戰しながら、どうして盜み出したものかと、それを考へた。

御婚禮支度は東京の松屋へ

御婚禮支度の案内「松鶴の栞」
地方よりの御註文に御便利な樣五百圓以上一萬圓迄六通りに御調度品一切を委しく御見積りして御座います
御一報次第送呈致します
◇地方よりの御註文は通信販賣係へ
振替口座東京八八〇番

弊店は常に良品本位に東都流行の源泉たるを期して居ります別して御婚禮支度には最も力を入れ今秋は御大典の佳節に當り御婚禮も多い事と存じ一層努力致しました

御祝儀には　松鶴の品を
松屋の品は御目出度い意味の「松鶴マーク」が付いて居りますので御婚禮支度には殊に緣起がよいと皆樣より御好評を戴いて居ります其他御祝儀の御贈答には是非松屋の品を

東京・銀座　松屋呉服店

防寒用メリヤスシャツ

裏毛ラクダ色	上下各	一円五〇
半毛	〃	三、〇〇
純毛	〃	三、五〇（特價）
〃	〃	四、〇〇
〃	〃	五、〇〇
〃	〃（大形四〇吋）	四、五〇
組付股引〃	每枚	四、五〇
〃	〃	五、〇〇

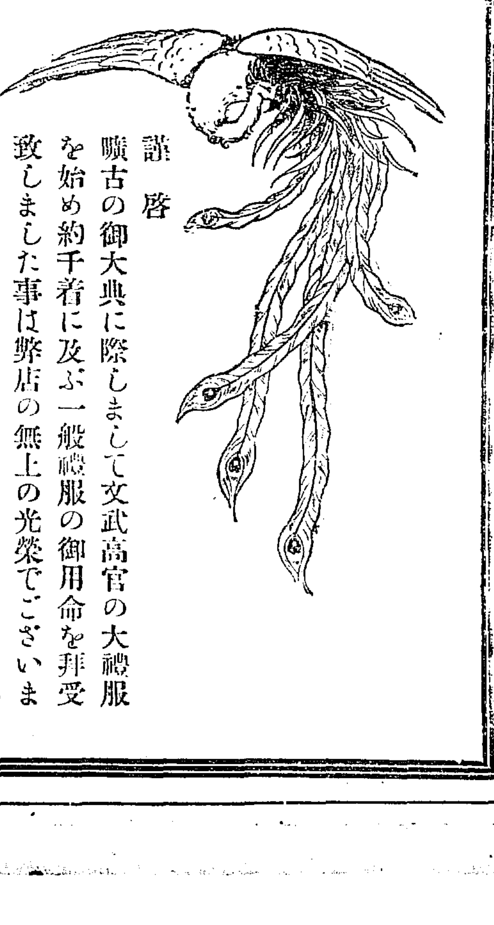
一組内地送料廿七錢　代引五錢增し

特許　洗濯不用　純毛防寒　一冬一本
フェルトカラー
各デパート及び洋品店にあり（白、茶、黒）
發賣元　東京・大阪　フェルトカラー商會
關西代理店　林繁藏商店

化學應用　金もうけ
陋品及粧前品の張込方百種を教授す成功の力を應用してスグその日から金儲けの出來る講義錄にして農林省指定賦狀出の如く小資本で功驗券送れ
東京市赤坂區表町二の九　製造化學通信學校

イージーおしめ　月經帶ビクトリヤ
御婦人には……御立働、御運動に至極御便利な　ビクトリヤ
御兒樣には……常に保溫衛生的な　イージーおしめ
發賣元　東京　大和ゴム製作所

今直ぐ召せ！
生産者より直接消費者へ御手渡しの廉價に加へ堅牢と優美とを兼備せる
消費組合　洋服
メルトン背廣三十六圓
メルトンオーバー三十五圓
コールテン背廣八圓
其他各種調進呈
仁川基督教青年會事業部
仁川山手町三　電話三一三　振替京城三五一七



謹啓
曠古の御大典に際しまして文武高官の大禮服を始め約千着に及ぶ一般禮服の御用命を拜受致しました事は弊店の無上の光榮でございます從業員總動員にて懸命努力の結果幸ひ無事全部の上納を終りました茲に謹んで御厚禮申上ます
右事情のため禮服以外の御注文に對しては不本意乍ら一時御斷り或は延期を願ひ上げ、折角の御期待に背きました事は誠に申譯ない次第でございます
茲に全く一段落を告げましたので工場の大整理を行ひ陣容を整えましてシーズン向防寒御用品に對しては極力奉仕申し上げ聊か御詫の意を表したいと存じますから此の好期を御利用被下改めて御用命の程幾重にも願ひ上げます
謹白

十一日より十四日まで
△三木弘滯佛小品展覽會
十三日より十八日まで
△國産優良毛織物展覽會

京城南大門通
株式會社　丁子屋洋服店

ヒサゴ正宗
仁川　豊田吟釀

あから毛　赤毛染
君が代
定價　特製四十錢・並製小五十錢・並製大七十五錢
全國藥店にあり
黒髮は女の生命
如何なるしらが赤毛でも僅か廿分で見惚れる程の艷麗な染毛剤中の最高級品
東京　山吉商店

義人侠勇實録 後藤半四郎 (42)

桃川如燕口演 野口紅厓畫

職人大工の御勝はそこに居るのが御勝市之丞とは知らず熊『マアお聞きなさい、お話はこれからだ、大病餓鬼ならば野辺地村の水を喫んで、バラ〳〵と二三町投げて下さいといふところだ、そのバラ〳〵をお願ひ申さず、たゞわつちはお爺さんに話をする』長『それは御苦労様でございます』熊『ようがすかえ、大槻さんが傭屋から銭を受け出した、それが二十三両二分、我慢してゐる方がこれだけの銭を受け出した、何うもこの銭はどこから出たかと疑ふは無理でもねえ、しかし人を見て法を説けとやらで、大槻さんは悪い事をする様な人ぢやあねえ、それを飛脚の久兵衛が来てね、さうさ丁度昼のひどく降つた日だ、その時に大槻屋さんは留守で、おまささんばかりその金の出所を聞くと今いつた通り御勝市之丞が置いて行つたものだ、ところがその御勝といふ奴の行方がわからねえ、出先の不明の金を使つたからには大槻さんが怪しいと、こういふわけでね、尤も油断で百両なくなつてゐたさうで、質受けをするその日に質物品物を出すことが出来ねえから待つてくれといつた大槻さんが、その晩直に受け出しに来たのはおかしい、ましてこの金の出所がわからねえ、して見れば盗間來た時にその百両を盗んで行つたものだらうと疑がいふんだね、さアおまささんが腹を立てて飛んでもない奴だと、大槻さんの脇差を抜いて切らうとする、そこへ文右衛門さんが帰つて来た、委細の話を聞いてら聞き、うたぐるは尤もであるが決して盗みしたものでないといひ訳をしたがきかねえあくまでも疑際だとかういふ、サア大槻さんが腹を立て切つてしまふと昂奮の外まで罪明を追ひ掛けた、あんな奴は殺してしまつた方がよい、どの道野郎が助かるか、ところがそこへ加役の旦那（同心）が通りかゝつて、大槻さんをとらへてしまつた、段々吟味をすると今いつた通りのわけで、たしかに悪事が持つて来た金だが出先がわからねえそふせたらとう大事になつた、するとその十八日に火事だ、わつちの所なぞも焼けたが、悪い風の吹いた晩だ、火元はこのいろは長屋でね、その時おまささんが上野広小路で大槻様に直訴をした、文右衛門に限つて不正な金を使ふものではねえと申し開きをした、それで加役に上げられた文右衛門さんが御奉行に引渡されて、今も吟味中だが、何にむづかしいことはねえンダ、御勝といふ奴さへ出れば、この事は目出たし〳〵とけりがつくが、どこへ御勝が行つてしまつたか、それとも野たれ死でもしたか、人間一つつまづいた時には往生要念佛、お気の毒なは大槻さん、然し、御奉行の大岡様がお係だから、今に出て来ませうが、その御勝といふ奴がどこにゐるかさ』長『御普請はどうなさいました』熊『普請が出来ていろは長屋でございますか、貴下のお話によつてすつかりわかりました、有難う存じます』と長八はこゝを出て路次へ入つたが新らしく長屋が出来たので、どこが大槻様の住居かと見廻してゐた長『御免下さいまし大槻様のお住居はこちらでございましたか』と訊ねる時に『ハイ、誰でございます御用ならばお入り下さいまし』長『御免を蒙ります』と格子をガラリと明けて入つてくる、その人を見れば隣の間にも訊ねて居る御勝市之丞、おまさはわれを忘れて飛び下り臨かりその手を押へま『御勝殿あなたの行方を訊ねてをりましたモシ御長屋の皆、御勝市之丞が参りました』と金切声で呼び立てた、それを聞くと〇『何だ大槻様に銭を返いて行つた勝公が来たと、それ逃がすな』とバラ〳〵と出て来た七八人その中に先刻市之丞が立寄つて大槻様の様子を訊ねた井戸端の御隠居も居る 熊『おまさん逃がされえやうに捕へておゐでなさい、こん畜生よくノメ〳〵とこゝへ来やがつた彼が置いていつた金の為大槻さんが入牢して居るでなさる、どうも先刻わつちの所へ来た時もいやな野郎だと思ひましたよ』

家庭用 浅田飴

口に甘し 身に薬にして

携帯用 固形浅田飴

旅行、遠足 観劇、事務家、等携帯に頗る重寶

定價 30 50 1.00 2.00

全國各薬店に取次ぎ中

本舗 東京 堀内

補血強壮

世界的に進出せる本邦唯一の強壮剤

鐵蛋白化合製剤

ブルトーゼ

虚弱 貧血 病中病後

諸病恢復期 腦神經衰弱 動脈硬化症

腺病質諸症 結核性疾患 氣管支喘息

消化不良症 姙婦授乳婦 皮膚病疾患

特に外科的及び疾患出血に基因する貧血

虚弱 貧血 病後衰弱 心身疲勞に 單 味 ブルトーゼ

榮養不良 神經衰弱 皮膚疾患に アルゼン ブルトーゼ

腺病質 佝僂病 梅毒 動脈硬化に ヨード ブルトーゼ

神經過勞 食慾不進 産前産後に キナ ブルトーゼ

肋膜炎 肺尖カタル 肺結核に グアヤコール ブルトーゼ

醫學博士 小田俊三先生著 呼吸器病の養生法

醫學博士 原田隆先生著 姙産婦の衞生

御申越次第贈呈

說明書及び實驗報告集進呈

鐵は血球の主成分たるのみならず動植物の細胞は一として之れを含有しないものはないので之れが欠乏は必然血球の形成不足となり貧血虚弱榮養不良等の原因となります從つて非療法はたゞ鐵劑を用ひて血球の形成催進に求むるより他にありません然し鐵は通常鐵鹽の形では吸收が困難で服ふべき副作用を有するの欠點があります本劑は多年研鑽の結果これを蛋白質とを特有な方法で結合せしめたもの即ち人體肝臓中に蓄藏せらるゝ貴重成分たる造血素と同一集成を有するもので直に血色素の材料として供給せらるゝの外血球新生機を刺戟し組織の發育及代謝機能を活潑ならしめ之れを亢進するの作用を有して居ります

BLUTOSE

大阪市東區道修町 藤澤友吉商店

支店 東京市日本橋區本町 支店 京城府西小門町四二

D—89

お忘れなく 一家に一瓶を

ペルゾーン

125瓦入 450瓦入 栓投添付

本品は過酸化水素液として最も純良なるものにして下記の特徴を具有す。

中性、無刺戟、含量正確、効力不變

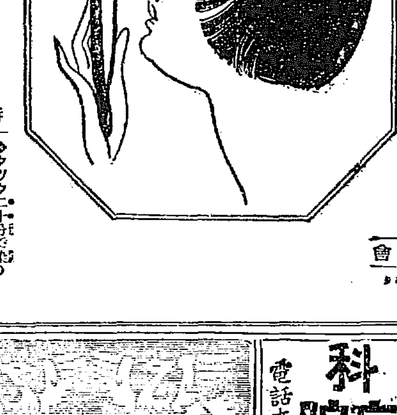
【用途】

含嗽、創傷處置、歯牙の美白等。

發賣元 第一製薬株式會社

東京市日本橋區元大工町十五

ナイス 去らが 赤毛染



特長

◇タツク二十分で染り

◇[illegible]

◇[illegible]

大阪 東京 丹平商會

化粧品店及薬店にあり

院長醫學博士植村俊二

外科 植村病院

京城永樂町二丁目

電話本局 一七一 九二〇番

成功者のポケットには必ず荒川のノーシンあり

小粒 大粒 仁丹

四博士賞任劑 消化素口香料

仁丹ハミガキ

仁丹の歯磨粉

仁丹歯ブラシ

仁丹型體溫計

本舗 大阪 森下博營業所

專賣特許 ウテナ

眞に色白く美しくなる

荒れを止め、美しい素肌に『ウテナ』

魅力溢れるお化粧は『ウテナ』愛用から

素晴しい人氣の專賣特許美白料『ウテナ』

――寫眞は水谷八重子嬢と『ウテナ』――

專賣特許『ウテナ』は定價一圓、二圓、三圓、全國の大百貨店有名化粧品店薬店にあります

――東京・ウテナ本舗――

赤津博士實驗推薦

C—6

昭和三年十一月十一日（明治三十九年八月十日第三種郵便物認可）

京城日報 號外

編輯兼發行人 鮫島宗也
印刷人 小川三之介
京城太平通一丁目
發行所 合資會社京城日報社

即位禮勅語

【京都電報】

朕惟フニ我カ皇祖皇宗惟神ノ大道ニ遵ヒ天業ヲ經綸シ萬世不易ノ丕基ヲ肇メ一系無窮ノ永祚ヲ傳ヘ以テ朕カ躬ニ逮ヘリ朕祖宗ノ威靈ニ頼リ敬ミテ大統ヲ承ケ恭シク神器ヲ奉シ茲ニ即位ノ禮ヲ行ヒ昭ニ爾有衆ニ誥ク

皇祖皇宗國ヲ建テ民ニ臨ムヤ國ヲ以テ家トナシ民ヲ視ルコト子ノ如シ列聖相承ケテ仁恕ノ化下ニ洽ク兆民相率ヒテ敬忠ノ俗上ニ奉シ上下感孚シ君民體ヲ一ニス是レ我カ國體ノ精華ニシテ當ニ天地ト並ヒ存スヘキトコロナリ

皇祖考古今ニ鑒ミテ維新ノ鴻圖ヲ闢キ中外ニ徴シテ立憲ノ遠猷ヲ敷キ文ヲ經トシ武ヲ緯トシ以テ曠世ノ大業ヲ建ツ皇考先朝ノ宏謨ヲ紹繼シ中興ノ丕績ヲ恢弘シ以テ皇風ヲ宇内ニ宣フ 朕寡薄ヲ以テ恭シク遺緒ヲ嗣キ祖宗ノ擁護ト億兆ノ翼戴トニヨリ以テ天職ヲ治メ墜スコトナク愆ツコトナカラムコトヲ庶幾フ

朕中ハ則チ教化ヲ醇厚ニシ愈民心ノ和會ヲ致シ益々皇運ノ隆昌ヲ進メムコトヲオモヒ外ハ則チ國交ヲ親善ニシ永ク世界ノ平和ヲ保チ普ク人類ノ福祉ヲ益サムコトヲ冀フ爾有衆ソレ心ヲ協ヘ力ヲ戮セ私ヲ忘レ公ニ奉シ以テ朕カ志ヲ弼成シ朕ヲシテ祖宗作述ノ遺烈ヲ揚ケ以テ祖宗神靈ノ降鑒ニ對フルコトヲ得シメヨ

昭和三年十一月十日

養老賑恤の御沙汰

それぞれ各地方に傳達 聖恩の鴻大を徹底せしむ

【京都電報】養老賑恤に關する御沙汰書は十日左の如く仰出されたが養老杯並に酒肴料はそれぞれ各地方にて傳達し賑恤のための御下賜金は内鮮各地、殖民地、避遠地に人口割を以て配布し聖恩の鴻大なるを徹底せしめた

今十日養老並に賑恤の儀左の通り被仰出内閣總理大臣へ別紙の通り御沙汰被爲在

一養老
三ツ組木杯 一組
酒肴料金一圓五十錢
右百歳以上の者へ下賜
木杯 一箇
酒肴料金一圓
右九十歳以上の者へ下賜
木杯 一箇
酒肴料金五十錢
右八十歳以上の者へ下賜
一賑恤
金一百五十萬圓
各地へ頒賜

御沙汰

老ヲ養フハ歴朝ノ至孝ヲ天下ニ勸ムル所以ニシテ窮ヲ賑ハスハ列聖ノ博愛ヲ兆民ニ奬ムル所以ナリ朕即位ノ禮ヲ行フニ臨ミ祖宗ノ遺訓ニ遵由シ養老賑恤ノ典ヲ擧ケシム其レ有司ニ命シテ敬ミテ朕カ意ヲ宣ヘシメヨ

叙位叙勳

【京都電報】

正五位勳三等 淺野總一郎
正六位勳三等 岡本元貞
同 堀啓次郎
同 鹿山[illegible]
正六位勳四等 伊藤長次郎
同 永田[illegible]
從六位 三井守之助
同 池田[illegible]
叙從五位（各通）
從六位勳五等 太田[illegible]
叙正六位（各通）
正七位勳四等 松本[illegible]
從七位勳六等 [illegible]
從七位勳五等 弘世助太郎
勳三等 喜多又藏
同 山下龜三郎
勳五等 堀[illegible]
勳六等 鈴木島吉
同 白石元治郎
今井五介
堀越善重郎
太田清藏
渡邊千代三郎
各務鎌吉
米山梅吉
中原岩三郎
山岡順太郎
牧田環
兒玉謙次
菊池恭三
叙正六位（各通）
正七位勳六等功五級 平岡[illegible]
從七位勳六等 長谷川正五
從七位 大野龍太
岩崎俊彌
勳四等 坂口平兵衛
同 澤原俊雄
勳六等 結城豐太郎
同 渡邊嘉一
宮島清次郎
大池忠助
濱田恒之助
西脇濟三郎
藤井真太郎
原富太郎
山室宗平
栗原[illegible]
叙從六位（各通）
正二位大勳位公爵 西園寺公望
授菊花章頸飾
正二位勳一等功一級 侯爵 [illegible]
正二位勳一等功一級 伯爵 山本權兵衛
叙大勳位授菊花大綬章（各通）
正二位勳一等子爵 金子堅太郎
從三位勳一等 若槻禮次郎
從一位勳一等侯爵 淺野長勳
從二位勳一等男爵 林權助
正三位勳一等子爵 齋藤實
授旭日桐花大綬章（各通）
勳二等 粕谷義三
從三位勳二等功三級 佐藤鐵太郎
勳一等授瑞寶章（各通）
正三位勳二等 長岡半太郎
同 宮入慶之助
從四位勳三等 北里柴三郎
授旭日重光章（各通）
正三位勳三等 長岡外史
正五位勳三等 [illegible]
北村兆之助
森平兵衛
千田留太郎
鈴木茂平
叙勳四等授瑞寶章（各通）
正六位勳六等 本間光弼
從六位勳六等 大島宇吉
正六位 前田緊世
從六位 市村[illegible]
兒玉一造
木村政治郎
光永星郎
鈴木三郎助
勳六等 中島[illegible]
同 香椎源太郎
同 津田竹平
宮腰喜助
同 山脇房子
同 鳩山春子
正七位勳七等 留岡幸助
勳八等 白岩龍平
星島謹一郎
和田豐治
渡邊榮三郎
黒岡端岳
藍島房次郎
賓田英之助
高島平三郎
宅間[illegible]
叙勳六等授瑞寶章（各通）
杉本京太

即位禮詔書

詔書

朕大統ヲ承ケ茲ニ大禮ヲ行フニ方リ有衆ト共ニソノ慶ヲ同クセムコトヲ欲シ遍ク仁澤ヲ及ホシ特ニ有司ニ命シテ恩赦ヲ行ハシム百僚公衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

御名御璽

昭和三年十一月十日

內閣總理大臣兼外務大臣 男爵 田中義一
鐵道大臣 小川平吉
海軍大臣 岡田啓介
陸軍大臣 白川義則
商工大臣 中橋德五郎
大藏大臣 三土忠造
農林大臣 山本悌二郎
內務大臣 望月圭介
司法大臣 原嘉道
遞信大臣 久原房之助
文部大臣 勝田主計

勅令

朕減刑令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和三年十一月十日

各大臣副署同上

勳七等 多田榮吉
勳八等 三宅川百太郎
板谷宮吉
伊澤平左衛門
馬場ハル
堀尾茂助
土井八郎兵衛
渡邊義郎
笠井眞三
田中榮八郎
田口百三
堤林數衛
中村両一郎
植村澄三郎
野口純
八代則彦
安川雄之助
松江春次
牧野元次郎
遠藤三郎兵衛
阿部房次郎
鮎川義介

正三位勳二等子爵 牧野忠篤
勳三等 村山龍平
同 本山彦一
正四位勳三等男爵 岩崎小彌太
叙勳二等授瑞寶章（各通）
從四位勳三等 菊池恭右衛門
勳三等 渡邊勝數
勳三等 林發陸
授旭日中綬章（各通）
正五位男爵 大倉喜七郎
從四位勳四等 湯川寬吉
從五位勳四等 馬越恭平
勳四等 山口元洞
同 廣瀬三郎
岡田治衛武
從五位勳四等 濱岡光哲
正五位 三井元之助
正六位 川西清兵衛
大川平三郎
若尾璋八
具島太市
門野重九郎
金杉英五郎
堤清六
安田善次郎
藤田銀次郎
木村久壽彌太
叙勳三等授瑞寶章（各通）
正七位勳四等 安田伊左衛門
從六位勳四等 關根照作
授旭日小綬章（各通）
從四位 村上直樹
勳五等 原春雄
正七位 矢野恒太
磯村豐太郎

叙勳五等授瑞寶章（各通）
松本留吉
吉屋清次郎
蒲老名彌正
明石貞
[illegible]正藏
吾孫子八太郎
木村德藏
三好德三郎
島津源藏
平尾[illegible]
正六位 大槻[illegible]
從七位 加藤[illegible]
同 伊地知[illegible]
勳七等 [illegible]
勳八等 藤井[illegible]
岩間德成
今村啓義
石井良一
石原幸一郎
井上永一
渡邊海旭
片岡九右衛門
長瀬政太郎
栗田鶴
山本龍之助
碓氷政次郎
黄瀬潤成
齋藤彦賢
金倉眞敏
三田順次郎
三島ヨシ
酒原円兵衛

陞授爵發表

【京都電報】

正二位勳一等子爵 清浦奎吾
從二位勳一等子爵 後藤新平
勳功ニ依リ特ニ陞授伯爵（各通）
正二位勳一等功三級 山下源太郎
正三位勳一等 佐藤昌介
從五位勳一等 團琢磨
勳功ニ依リ特ニ授男爵（各通）
從五位勳三等功四級 德川好敏
特ニ授男爵

減刑令發布

罪一等を減ぜらる

勅令第二百七十號減刑令

第一條 昭和三年十一月十日前に刑の言渡しを受けたる者にしてその刑の執行前、執行猶豫中、執行停止中又は假出獄中の者は本令に依りその刑を減刑す

但しその執行を遁るゝものは此の限りにあらず

第二條 死刑は之を無期懲役とす

第三條 無期懲役は之を二十年の有期懲役とし無期禁錮は之を二十年の有期禁錮とす

但し昭和三年十一月十日に於て七十歳以上の者及び犯時十六歳未滿の者については之を十五年とす

第四條 有期の懲役又は禁錮については左の令により刑期を變更す

一、刑の執行を始めざるものについては四分の一を減ず

二、刑の執行を始めたるものについては殘刑期の二分の一を減ず

但し刑の執行が刑期の二分の一に至らざるものについては前號の令に據る

三、昭和三年十一月十日に於て七十歳以上の者及び犯時十六歳未滿の者については前二號の例に依らず刑期の三分の一を減ず

短期長期を定めて言渡したる刑については短期及長期につき前項の例に依る、但し犯時十六歳以上の者にして短期を經過したる者については長期につき前項第二號の例に依る、前二項の計算をなすに當り年、月又は日の端數を生ずる時は一年はこれを十二月、一月はこれを卅日とし日の端數はこれを除棄す

第五條 罰法の刑はこれに相當する刑法の刑により、これを減輕す、罰法の刑を減輕したるときはその刑名はこれに相當する刑法の刑名に變更す

第六條 左に掲ぐる罪については其の刑を減輕せず

一、刑法第七十三條及び第七十五條の罪

二、刑法第百八條の罪及び其の未遂罪

三、刑法第百四十八條の罪及び其の未遂罪

四、刑法第百八十一條の罪

五、刑法第二百條の罪及其の未遂罪

六、自己又は配偶者の直系尊屬に對して犯したる刑法第二百四條の罪

七、刑法第二百五條第二項の罪

八、刑法第二百十八條第二項の罪

九、刑法第二百二十二條第二項の罪及其の罪を犯し依つて人を死傷に致したる罪

十、刑法第二百三十六條第二百三十八條若くは第二百三十八條の罪又は其の未遂罪

十一、刑法第二百四十條の罪及第二百四十一條の罪並に其の未遂罪

十二、前各號に掲ぐる罪と性質を同じくする罰法の罪

十三、軍機保護法第一條乃至第三條の罪及其の未遂罪

十四、朝鮮、臺灣、關東州又は南洋群島に行はれたる法令の罪にして前各號に掲ぐる罪と性質を同じくする者

第七條 併合罪に付併合して一個の刑の言渡ありたる場合に於いて其の併合罪中前條に掲ぐる罪あるときは減刑を爲さず前條に掲げざる罪名に觸るゝ行爲にして同時に掲ぐる罪名に觸るゝ時又は前條に掲ぐる罪の手段若くは結果たる時亦同じ

第八條 前に禁錮以上の刑に處せられたる者にして昭和三年十一月十日前十五年以內に恩赦を得其の後七年以內に禁錮以上の刑に處せられたる者については其の刑を減刑せず

但し前に強盜又は竊盜の行爲に依り刑に處せられたるものに限る

第九條 前數條の規定に依り減刑を爲さざる者と雖も特別の事情ある時は減刑を行ふことを得

附 則

本令は公布の日より之を施行す

海技免狀所有者懲戒免除

朕海技免狀ヲ有スル者及水先人ノ懲戒免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和三年十一月十日

內閣總理大臣男爵 田中義一
遞信大臣 久原房之助

恩赦推定人員

【京都電報】恩赦推定人員總數左の如し

一、特別特赦 一萬[illegible]千八百人
一、一般減刑 一萬〇三百二十三人
一、特別減刑 [illegible]千四百十八人
一、復權 十七萬七千九百三十二人
計 二十[illegible]萬四千四百七十三人

懲戒懲罰免除

朕官吏、官吏待遇者等ノ懲戒及懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和三年十一月十日

各國務大臣副署

勅令第二百七十一號

官吏又は官吏待遇者にして昭和三年十一月十日前の所爲につき懲戒又は懲罰の處分を受けたる者に對しては將來に向つて其の懲戒又は懲罰を免除す、未た處分を受けざる者に對しては懲戒又は懲罰を行はず

陸軍懲罰令又は海軍懲罰令の適用を受くる者亦前項に同じ懲罰に基く既成の效果は免除に依り變更ぜらるることなし停職中の陸海軍々人にして其の停職を免除せられたる者は待命とす

附 則

本令は公布の日より之を施行す

公證人等の懲戒免除

朕公證人辯護士計理士司法代書人辯理士ノ懲戒免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和三年十一月十日

內閣總理大臣男爵 田中義一
商工大臣 中橋德五郎
司法大臣 原嘉道

復權令

朕復權令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和三年十一月十日

各國務大臣副署

勅令第二百七十一號

復權令

第一條 罰金以上の刑の言渡を受けたるため資格を喪失し又は停止せられたる者にして其刑の執行を終り又は執行の免除を得たる日より昭和三年十一月十日の前日迄に十年以上を經過したる者は復權す但し大正七年十一月十日以後に再び罰金以上の刑に處せられたる者は此の限りに在らず

第二條 十八歳未滿の時罪を犯し死刑又は無期刑に非らざる刑に處せられたる者にして昭和三年十一月十日の前日迄に其の刑の執行を終り又は執行の免除を得たる者は其の刑に處せられたる爲め喪失し又は停止せられたる資格につき復權す

附 則

本令は公布の日より之を施行す

西大門刑務所では七百五十七名

三名が死刑から無期へ

西大門刑務所においては十一月十日午後九時本府法務局より恩赦令の傳達があり直に受刑者にこの恩典を傳へたが受刑者一千三百六十名中恩典に浴した者は死刑から無期に三名、無期から有期に三名、有期刑期の三分の一を減じられた者九名、刑期四分の一を減ぜられた者五百十一名、刑期の二分の一を減ぜられたもの二百三十一名合計七百五十七名であつたが同刑務所では右の命を直に傳達した。

田中首相の壽詞

【京都電報】田中首相の奉讀した壽詞左の如し

臣義一誠ミテ言ス伏シテ惟ミルニ陛下皇祖皇宗ノ大卽ヲ奉承シ萬世一系ノ大統ヲ紹繼シ茲ニ卽位ノ禮ヲ行ヒ給ヒ億兆欣躍何レカ四海同慶ノ大典ヲ賀シ奉ラサラン臣義一誠歡誠喜頓首頓首恭シク惟ミルニ皇祖皇孫ヲ降シ神器ヲ授ケ給ヒ天壤無窮ノ神勅ヲ賜ヒ惠民ノ德澤天下ニ洽ク以テ萬世不易ノ皇基ヲ定メ給ヘリ皇宗ノ聖謨ヲ繼シ給フヤ卽チ中洲ヲ平ニシ帝位ニ卽キ皇孫ノ正ノ御心ヲ弘メ建國ノ經綸ヲ後世ニ被シ以テ一統無窮ノ鴻業ヲナシ給ヘリ爾リシヨリ以來列聖相承ケ上深仁ヲ施シテ黎庶ヲ撫下ニ厚クシ下至誠ヲ捧ケテ感戴上ニ親ム蓋シ國ヲ以テ家トナシ君民ノ一體タル君ヲ視ルコト父ノ如ク忠孝ノ二途ナラザル是我カ國體ノ神聖ニシテ萬邦無比ナル所以ナリ明治天皇聖德深厚ニシテ神謨卓識中外ヲ經緯シテ維新ノ隆運ヲ啓キ古今ヲ斟酌シテ中興ノ大業ヲ成シ給ヘリ卽チ庶勳ヲ除シ國民道德ノ大本ヲ建テ卽チ聖詔ヲ頒チ立憲政體ノ永制ヲ布キ治具皆張リ文物悉ク備ハル進ミテ用兵ノ名ヲ正シ皇威ヲ千里ニ宣ヘ退キテ厚生ノ途ヲ盡シ國礎ヲ萬世ニ固クシ給ヘリ大正天皇天資聰明ニシテ聖性仁孝先朝ノ丕績ヲ紹述シ國體ノ皇謨ヲ恢弘シ聖運ソレ益ニ隆盛ニ揚リ皇猷ヲ宇內ニ光被シ給ヘリ陛下卽チ聖ニ卽チ明ニ德ヲ儲位ニ發ヒ允ニ文ニ允ニ武ニ政ヲ攝宮ニ攝シ給フ旣ニ廣德ニ御シ遠ク雄圖ノ天業ニ鑑ミ寬仁化ヲ敷キ乃チ乾綱ヲ攬リ博ク賢明ノ輔翼ニ徴シ寄吁治ヲ圖リ給フ億兆皆至誠ノ治化ニ沐シ渥淵悉ク至朗ノ恩徳ニ浴セサルモノナシ今ヤ系ケナクモ神勅ヲ賜ヒ皆ク臣民ニ詔ツサセラレ皇祖ノ盛典ヲ皇宗ノ創業以テ列聖繼述ノ迹ニ遵ヒ我ガ國體ノ淵源ヲ闡發シ以テ國家統治ノ大綱ヲ明カニシ以テ臣民遵由ノ大道ヲ示シ普ク國際ノ親和ヲ圖ヒ深ク人類ノ福祉ヲ冀ハセラレ給フ聖慮深遠臣等感激何ソ已マン臣等當風夜戰兢聖旨ヲ奉體シ誓ヒテ衆公ノ節ヲ効シ以テ聖猷ノ萬一ニ報ヒ奉ラサランヤ臣等幸ニ鎔儀ニ陪シ天日ノ御寶ノ座ヲ拜シ奉リ愉悅抃舞ノ至リニ堪ヘス臣義一帝國臣民ニ代リ仰キテ寶祚ノ大禮ヲ祝シ奉リ謹ミテ寶祚ノ無窮ヲ祝シ謹シク頌禱ノ無窮ヲ祈リ奉ル臣義一誠歡誠喜頓首頓首謹ミテ言ス

昭和三年十一月十日

內閣總理大臣從二位勳一等功三級 男爵臣 田中義一

恩典に浴するもの 一萬六百六十一人

在監總人員の五割一分

水野法務課長談

今回の恩赦、は特赦、特別減刑、減刑、復權を並行せらるるもので大赦を除く以外昭和二年の御大喪儀に際し公布ありたる恩赦と其の範圍同一にして一般減刑は刑の執行前、執行中、執行猶豫中の者に對し行ひ右減刑の恩典に浴する總人員は一〇、六六一人にして之を昭和二年の減刑總人員一〇、〇四九人に比するときは六一二名の增加なりとす

之を檢事局に於て施行する非在監者、刑務所に於て施行する在監者に分つときは檢事局は二、九六〇人にして昭和二年の同人員二、五五九人に比し四〇一人の增加となり、刑務所は七、七〇一人にして昭和二年の同人員七、四九〇人に比し二一一人の增加を示す

而して最近在監既決囚總人員は一四、九六三人にして右の內五割一分は今回減刑の恩典に浴し之を昭和二年の恩赦施行當時の在監既決囚總人員一三、八九四人の五割三分に比するときは二分の減を示す

右の如く在監中の者にして今回の減刑に浴する人員は昭和二年の同減刑人員に比し事實上增加し乍ら在監既決囚總人員との步合に於て反對の減少を示すは恩赦に浴し得ざる犯罪を犯したる在監者並に前に恩赦に浴したる後七年以內に處刑せられたる在監者增加したる結果なるべし

尚特赦、特別減刑、復權に浴すべき者に就ては目下愼重調査を進めつゝあり

出納官吏免除

朕出納官吏ノ辨償責任ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和三年十一月十日

內閣總理大臣兼外務大臣男爵 田中義一
鐵道大臣 小川平吉
海軍大臣 岡田啓介
陸軍大臣 白川義則
商工大臣 中橋德五郎
大藏大臣 三土忠造
農林大臣 山本悌二郎
內務大臣 望月圭介
司法大臣 原嘉道
遞信大臣 久原房之助
文部大臣 勝田主計

陸軍懲罰免除

朕陸軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

昭和三年十一月十日

陸軍大臣 白川義則

內鮮の別なく 忠誠を勵み奉る

御式終了の後 山梨總督語る

【大阪特電】御大典第一日に參列の山梨總督は御式終了後左の如く語つた

待ちに待つた御大典も滯りなく行はせられ八千萬臣民と共に、衷心から御祝ひ申上げる次第である。御式は時刻正しく些の滯りもなく行はせられたが、誠に莊嚴の極みであつて、陛下の御稜威は益々四海に光りを放つたことゝ御恐察申上げる。田中首相は陛下の御前に於て、四海同胞の御大典を、賀し奉り、聖恩の萬分の一にも報ひ奉ることを誓ひ申上げた。吾々臣民は、聖壽の無窮を祈り、共にこの有難き聖旨を、內鮮の別なく、よく奉體して益々忠誠を勵み奉る次第である。

制令違反や治維法も含まる

特に朝鮮に於ては及ぶ所が大きい

今回の恩赦令は昭和二年二月大正天皇御大葬の際の恩赦令より範圍が廣く主として思想に關する罪、制令違反、治安維持法違反等にも恩命があることになつたので朝鮮としては非常に恩命を受ける者が多く一般に多大のショックを與へ又天恩に感泣せしめてゐる、なほこの恩赦[illegible]は殆どことごとく恩典に浴するので[illegible]全鮮二十ケ所[illegible]

賑恤下賜金

朝鮮三十六萬六千圓

【京都電報】今度御賑恤の資として御下賜あらせられたる金百五十萬圓にして內

朝鮮 三十六萬六千二百圓
臺灣 七萬九千圓
關東州 一萬八千七百圓
南洋群島 一千圓

恐懼感激に堪へず

（京都發）山口太兵衛

畏くも陛下御即位の御大禮をあげさせ給ふ當日拜して多くも不肖在鮮者代として參列の光榮に浴したることはまことに恐懼感激に堪へざるところなり、謹んで聖壽の萬歳を唱和し奉りたることを本紙を通じて在鮮者各位に御傳へを乞ふ

本號外は本紙に再錄せず

本社來訪奉祝 假裝團

十日夕より夜にかけて本社を訪れたる假裝團は左の通りであつた

▲ツルヤ洋服店▲新町組合▲南米倉町▲杏村洞▲紅把洞▲明治町▲勸勵行列▲蔭陽舞踊り▲多田工務所▲丁子屋オーケストラ團▲旭町二丁目

本日（十一日）夕刊を廢し朝刊（十二日）を發刊す